

第5次枚方市総合計画 第2期実行計画 及び
枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）
総括評価報告書

令和5年11月
枚方市

目 次

1. はじめに	1
1 総合計画の概要.....	1
2 実行計画の概要.....	1
3 実行計画の進行管理.....	1
(1) 施策評価制度の概要.....	1
(2) 評価方法.....	1
2. 第2期実行計画の総括評価	5
1 実行計画推進による実績.....	5
2 客観的指標に係る効果検証.....	5
3 主観的指標に係る効果検証.....	7
3. 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）の総括評価	13
1 取り組み目標の実績.....	13
2 政策指標の推移.....	13
3 3つの基本目標に関する指標の推移.....	14
4 各施策目標に対する重要業績評価指標（K P I）の推移.....	15
【参考】	
総括評価シート.....	16

1. はじめに

1. 総合計画の概要

本市では、平成 28 年度にめざすまちの姿を「持続的に発展し、一人ひとりが輝くまち 枚方」として、平成 28 年度に第 5 次総合計画を策定し、計画期間を無期限とする基本構想と、計画期間を 12 年間（平成 28 年度～令和 9 年度）とする基本計画の 2 段階で構成しています。

2. 実行計画の概要

第 5 次総合計画基本計画（以下、「基本計画」という。）を推進するために、基本計画の具体的な実現計画として、実行計画を作成しています。実行計画は、4 年間で取り組む事業を定めたもので、61 の取り組みで構成されています。

3. 実行計画の進行管理

（1）施策評価制度の概要

本市では、総合計画基本計画（以下、「基本計画」という。）の施策推進にあたり、市民参加による市政運営を目指して、平成 22 年度から行政運営における PDCA サイクルにより、施策評価を実施しています。また、令和 2 年度からは、企画・財政・行革が連動・連携する行財政経営システムを運用しており、本システムの一環として実施しています。

この施策評価は、評価結果を政策につなげていくことを目的に実施するもので、評価のプロセスを公表し、市民への説明責任を果たすとともに、学識経験者や市民などの枚方市施策評価員（以下、「評価員」という。）による評価も取り入れながら、市政運営の透明性と市民の市政への関心を高めることを目的としています。

（2）評価方法

①毎年度の検証・評価

基本計画の推進にあたっては、基本計画を具体化するための 61 の取り組みで構成される、第 2 期実行計画＜令和 2 年度～令和 5 年度＞を基に進めます。

第 2 期実行計画は、基本計画の施策指標の推移に係る分析を行うとともに、実行計画を構成する事務事業又はその指標の実績を活用することで、毎年度、検証・評価しながら進行管理を行います。

②4 年ごとの検証・評価

基本計画の施策指標の推移を基に、総括評価シートを活用し、施策目標ごと、実行計画 4 年間の総括を行います。

総括評価においては、施策目標の取り組みの成果として、市民がどのように感じているか把握する主観的指標（満足度及び重要度）を活用するとともに、評価員の評価もいただきながら、基本計画の検証・評価につなげていきます。

■「施策指標」による進捗管理

28の施策目標及び4つの計画推進ごとに、市民の評価により進捗を測る「主観的指標」と客観的な数値により進捗を測る「客観的指標」を組み合わせ、「施策指標」を設定しています。この施策指標の推移を把握することで、計画の進捗管理を行います。

施策指標	主観的指標	<p>●目標に向けた取り組みの成果を、市民がどのように感じているか把握する指標（各施策に対する「重要度」「満足度」を4年毎に実施する市民意識調査により把握する。ただし、「満足度」は毎年度調査する。）</p> <p>※指標例：「防災体制が整っていると感じている市民の割合」、「防犯体制が整い、身近な安全が確保されていると感じている市民の割合」など</p> <p>（市民の割合とは、市民意識調査の6つの回答区分 [高い、やや高い、普通、やや低い、低い、わからない] のうち、「高い」、「やや高い」の回答率）</p>
	客観的指標	<p>●目標に向けた取り組みの成果を、客観的な数値により定量的に把握する指標（毎年度、実績数値を把握する。）</p> <p>※指標例：「重要物資備蓄目標達成率」、「自主防災組織が年1回以上の訓練を実施した割合」など</p>

※施策指標については、社会状況の変化などを踏まえ、必要に応じてより適切な指標への改善を図ります。

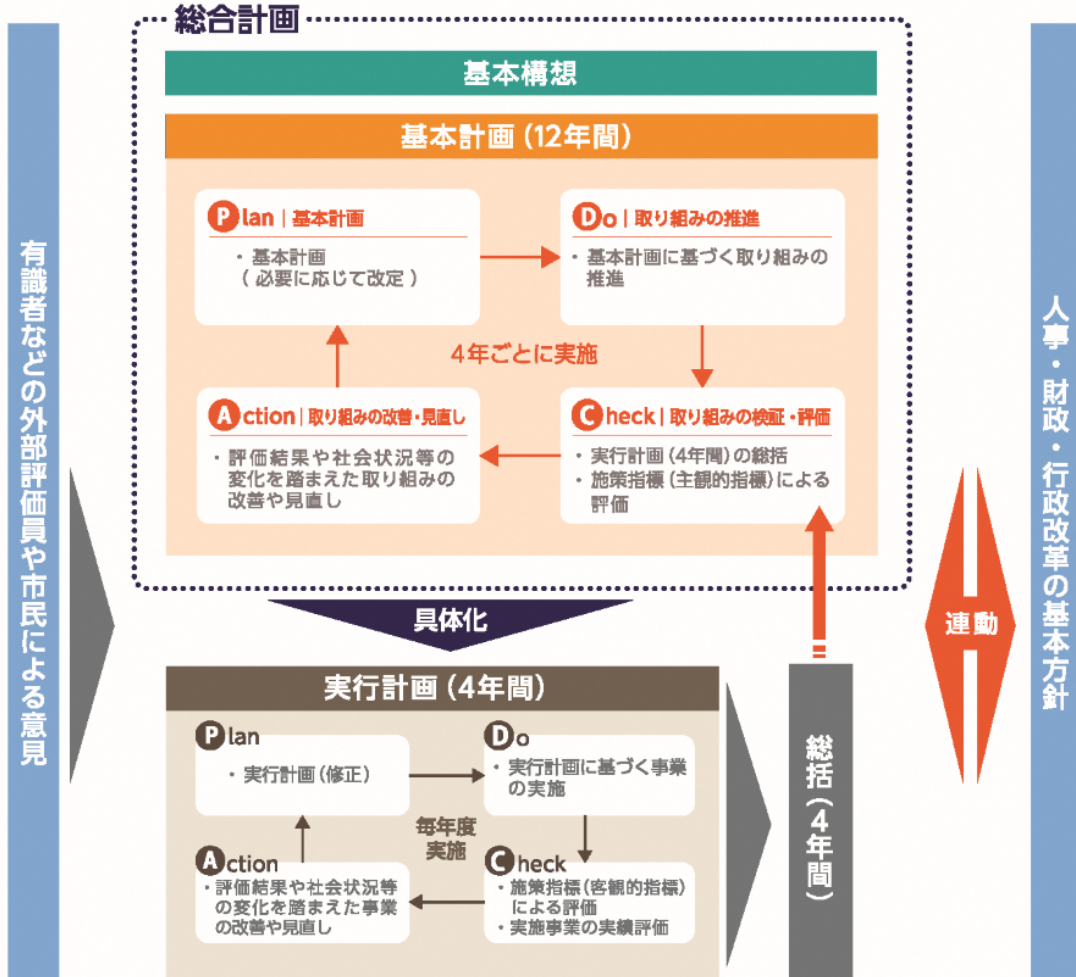
■「実行計画の実績」による進捗管理

毎年度、実施に係るコストや人員とともに、目標達成に向けた実績を把握することで、実行計画の進捗管理を行います。

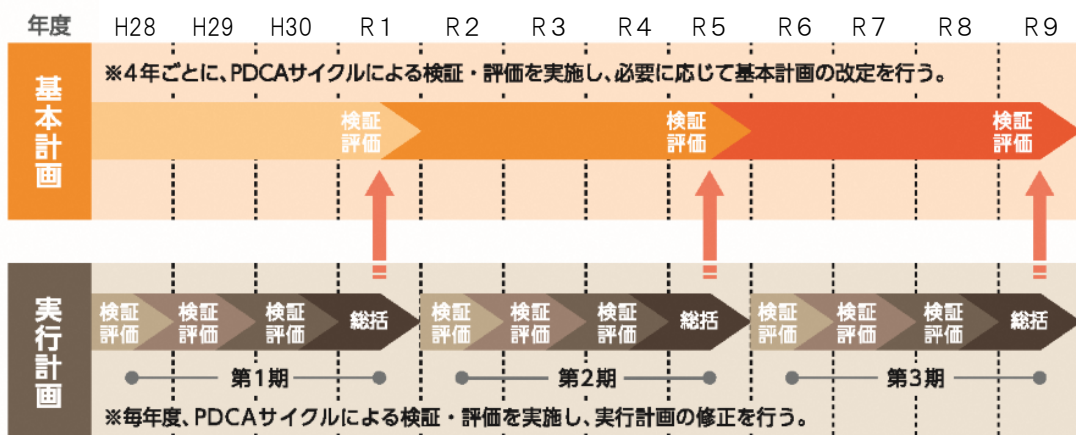
なお、基本計画の検証・評価についても、計画が適切な内部評価をもとに効率的・効果的に推進しているかなどについて、評価員から意見をいただきながら行います。

さらに、以下のような評価サイクルを人事・財政・行政改革の基本方針と連動させることで、計画の実行性を高めていきます。

■ 総合計画の進め方のイメージ



■ 基本計画と実行計画の検証・評価、推進の流れ



【第5次枚方市総合計画基本計画 4つの重点的に進める施策】

重点的に進める施策	主な関連施策目標等
1. 市民、市民団体、事業者、行政が連携し、支えあうまちをつくる	計画推進 1・2
2. 安心して子どもを産み育て、健やかな成長と学びを支えるまちをつくる	施策目標 14・15・16
3. 誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる	施策目標 6・7・8・9
4. 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる	施策目標 4・5・18・20・21

【第5次枚方市総合計画基本計画 部門別の取り組みの施策体系】

基本構想	基本計画	
	NO.	施策目標
5つの基本目標		
安全で、利便性の高いまち	1	災害に対する備えができているまち
	2	災害時に、迅速・的確に対応できるまち
	3	暮らしに身近な安全が確保されたまち
	4	安全で快適な交通環境が整うまち
	5	快適で暮らしやすい環境を備えたまち
健やかに、生きがいを持って暮らせるまち	6	誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち
	7	公衆衛生や健康危機管理が充実したまち
	8	安心して適切な医療が受けられるまち
	9	高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち
	10	障害者が自立し、社会参加ができるまち
	11	すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち
	12	男女がともに参画し、個性を発揮できるまち
	13	平和の大切さを後世に伝えるまち
一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち	14	安心して妊娠・出産できる環境が整うまち
	15	子どもたちが健やかに育つことができるまち
	16	子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち
	17	誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち
地域資源を生かし、人々が集い活みなぎるまち	18	人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち
	19	地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち
	20	いきいきと働くことのできるまち
	21	地域産業が活発に展開されるまち
	22	農を守り、生かすまち
自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち	23	豊かな自然環境を大切にすまち
	24	まちなかのみどりを育てるまち
	25	ごみを減らし、資源の循環が進むまち
	26	安全で良好な生活環境が確保されたまち
	27	地球温暖化対策に取り組むまち
	28	美しく魅力あるまち並みが育まれるまち
計画の推進に向けた基盤づくり	NO.	計画推進
市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進	1	市民との情報の共有化を進めます
	2	市民による活発なまちづくり活動を支援します
効率的・効果的な市政運営	3	持続可能な行財政運営を進めます
広域的な連携と地方分権の推進	4	自治体間の広域連携や地方分権の推進を図ります

2. 第2期実行計画の総括評価

1. 実行計画推進による実績

別添の総括評価シートにおいて、施策目標ごと、実行計画推進による実績を記載しています。

2. 客観的指標に係る効果検証

各施策目標に対する客観的指標の推移については、全139指標のうち89指標（64.0%）が、策定時の値を上回っており、33指標（23.7%）が、目標値を達成しています。一方で、42指標（30.2%）については、策定時の値を下回っています。

第2期実行計画の計画期間については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を目的とするイベントの中止・縮小、外出自粛の影響により、参加者数や、外出を前提とする指標が想定を下回るなど、客観的施策指標の推移に大きな影響を与えました。

また、施策評価員からは、施策目標の進捗管理のため、より適切な指標設定が求められるとの指摘がありました。

第3期実行計画策定にあたっては、コロナ後の新しい生活様式や、時代の変化に即した施策指標の設定を検討していきます。

【施策指標（客観的指標）の達成状況一覧】

施策指標の令和5年度目標値達成状況の集計【客観的指標】

施策目標	①目標値を達成したものの	②目標値には達していないものの、策定時の値よりは良くなっているもの	③策定時の値よりも悪化しているもの	指標の数 ((①~③に分類困難なものを含む)
01 災害に対する備えができているまち	2	2	1	5
02 災害時に、迅速・的確に対応できるまち	1	0	2	3
03 暮らしに身近な安全が確保されたまち	1	2	0	3
04 安全で快適な交通環境が整うまち	2	3	2	7
05 快適で暮らしやすい環境を備えたまち	0	1	2	4
06 誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち	2	3	3	8
07 公衆衛生や健康危機管理が充実したまち	1	1	1	3
08 安心して適切な医療が受けられるまち	1	2	2	5
09 高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち	1	2	2	5
10 障害者が自立し、社会参加ができるまち	1	0	1	2
11 すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち	0	3	1	4
12 男女がともに参画し、個性を発揮できるまち	1	2	0	3
13 平和の大切さを後世に伝えるまち	0	0	1	1
14 安心して妊娠・出産できる環境が整うまち	1	0	0	1
15 子どもたちが健やかに育つことができるまち	2	6	1	9
16 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	2	6	8	18
17 誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	0	4	1	5
18 人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち	0	0	1	2
19 地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち	0	1	3	4
20 いきいきと働くことのできるまち	0	1	1	2
21 地域産業が活発に展開されるまち	2	2	1	6
22 農を守り、生かすまち	0	1	4	5
23 豊かな自然環境を大切にすまち	1	2	0	4
24 まちなかのみどりを育てるまち	1	1	0	3
25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち	1	0	1	3
26 安全で良好な生活環境が確保されたまち	4	1	0	5
27 地球温暖化対策に取り組むまち	1	1	0	2
28 美しく魅力あるまち並みが育まれるまち	1	2	0	3
29 市民との情報の共有化を進めます	3	1	0	4
30 市民による活発なまちづくり活動を支援します	0	1	2	3
31 持続可能な行財政運営を進めます	1	3	1	5
32 自治体間の広域連携や地方分権の推進を図ります	0	2	0	2
合計	33	56	42	139

(再掲含む)

3. 主観的指標に係る効果検証

本市の市民意識調査では、枚方市の印象等に関するアンケートとともに、各施策に対する市民の重要度・満足度に関するアンケートを実施しました。

施策目標（満足度の目標については、重点施策（網掛け）は5%アップ、それ以外は3%アップ）

評価：①目標値を達成したもの ②目標値には至らなかったが、策定時の値を上回っているもの ③策定時の値を下回っているもの

	施策目標	施策指標	満足度					重要度				
			H27	R1	R5	R5-R1	R5目標値	評価	H27	R1	R5	R5-R1
1	災害に対する備えができているまち	防災体制が整っていると感じている市民の割合	37.2	36.7	38.0	1.3	40.2	②	66.7	67.1	80.2	13.1
2	災害時に、迅速・的確に対応できるまち								69.7	70.1	84.1	14.0
3	暮らしに身近な安全が確保されたまち	防犯体制が整い、身近な安全が確保されていると感じている市民の割合	30.7	35.4	37.5	2.1	38.4	②	67.5	67.2	82.1	14.9
4	安全で快適な交通環境が整うまち	安全で快適な道路環境が整っていると感じている市民の割合	27.6	30.2	31.6	1.4	35.2	②	67.4	66.3	81.3	15.0
5	快適で暮らしやすい環境を備えたまち	公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合	37.8	41.9	52.1	10.2	46.9	①	63.4	62.7	79.8	17.1
6	誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち	心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合	52.4	56.1	51.5	-4.6	61.1	③	66.3	64.8	79.5	14.7
7	公衆衛生や健康危機管理が充実したまち								59.0	61.0	80.2	19.2
8	安心して適切な医療が受けられるまち	安心して適切な医療が受けられる環境が整っていると感じている市民の割合	62.5	49.6	59.8	10.2	67.5	③	74.4	74.9	86.8	11.9
9	高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち	高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合	27.5	30.0	34.2	4.2	35.0	②	65.0	63.4	76.4	13.0

	施策目標	施策指標	満足度					重要度				
			H27	R1	R5	R5-R1	R5目標値	評価	H27	R1	R5	R5-R1
10	障害者が自立し、社会参加ができるまち	障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合	23.9	23.9	20.8	-3.1	26.9	③	59.6	57.4	74.3	16.9
11	すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち	一人ひとりが人権を尊重し合っていると感じている市民の割合	19.3	20.2	25.9	5.7	23.2	①	51.3	50.4	70.4	20.0
12	男女がともに参画し、個性を発揮できるまち	男女共同参画社会が実現していると感じている市民の割合	14.3	16.9	18.1	1.2	19.9	②	41.9	43.5	66.4	22.9
13	平和の大切さを後世に伝えるまち	平和の大切さが継承されていると感じている市民の割合	34.3	42.9	41.3	-1.6	45.9	②	53.4	55.6	71.6	16.0
14	安心して妊娠・出産できる環境が整うまち	安心して妊娠・出産できる環境が整っていると感じている市民の割合	37.3	38.5	34.7	-3.8	43.5	③	65.3	66.1	79.7	13.6
15	子どもたちが健やかに育つことができるまち	安心して子育てできる環境が整っていると感じている市民の割合	37.9	44.5	39.3	-5.2	49.5	②	72.9	73.1	84.4	11.3
16	子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	子どもたちへの教育環境が充実していると感じている市民の割合	35.3	39.4	36.5	-2.9	44.4	②	69.7	70.8	83.0	12.2
		子どもが安全な学習環境で学校生活を過ごしていると感じている市民の割合	43.8	46.8	41.9	-4.9	51.8	③				
17	誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち	生きがいを持って学び続けられる環境が整っていると感じている市民の割合	28.5	29.6	27.5	-2.1	32.6	③	54.4	56.5	71.7	15.2
		文化芸術に親しめる環境が整っていると感じている市民の割合	17.3	26.6	41.0	14.4	29.6	①				
		気軽にスポーツ活動ができる環境が整っていると感じている市民の割合	28.7	31.6	38.4	6.8	34.6	①				
18	人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち	枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じている市民の割合	22.0	42.6	40.2	-2.4	47.6	②	55.0	54.3	67.1	12.8

	施策目標	施策指標	満足度					重要度				
			H27	R1	R5	R5-R1	R5目標値	評価	H27	R1	R5	R5-R1
19	地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち	市の観光資源が活かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合	20.8	21.2	17.8	-3.4	24.2	③	45.8	44.6	63.8	19.2
20	いきいきと働くことのできるまち	市内での産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合	18.3	20.7	20.2	-0.5	25.7	②	62.5	59.1	76.1	17.0
21	地域産業が活発に展開されるまち								57.4	55.1	69.5	14.4
22	農を守り、生かすまち	農地が保全されるなど、「農」を守り、生かされていると感じている市民の割合	21.6	23.6	16.5	-7.1	26.6	③	51.4	51.8	69.4	17.6
23	豊かな自然環境を大切にすまち	里山や農地などの豊かな自然環境が保全されていると感じている市民の割合	40.3	32.8	24.4	-8.4	43.2	③	61.0	62.2	78.8	16.6
24	まちなかのみどりを育てるまち	普段の生活の中でみどりとふれあえると感じている市民の割合	48.4	48.3	48.0	-0.3	51.4	③	63.6	65.8	75.1	9.3
25	ごみを減らし、資源の循環が進むまち	ごみ減量や資源循環が進んでいると感じている市民の割合	45.5	46.8	34.7	-12.1	49.8	③	67.9	70.9	80.2	9.3
26	安全で良好な生活環境が確保されたまち	安全で良好な生活環境が確保されていると感じている市民の割合	42.5	36.8	47.3	10.5	45.5	①	72.5	73.3	83.2	9.9
27	地球温暖化対策に取り組むまち	地球温暖化対策の取り組みが進んでいると感じている市民の割合	16.2	26.0	13.2	-12.8	29.0	③	53.3	56.7	73.9	17.2
28	美しく魅力あるまち並みが育まれるまち	まちの美化が進んでいると感じている市民の割合	38.9	39.6	37.9	-1.7	42.6	③	62.2	62.4	73.8	11.4

計画推進

	施策目標	施策指標	満足度					重要度				
			H27	R1	R5	R5-R1	R5目標値	評価	H27	R1	R5	R5-R1
1	市民との情報の共有化を進めます	行政からの情報発信が充実していると感じている市民の割合	32.9	29.8	37.2	7.4	37.9	②	49.5	48.5	67.4	18.9
		行政に対し意見を言う場が確保されていると感じている市民の割合	9.8	13.8	15.5	1.7	18.8	②				
2	市民による活発なまちづくり活動を支援します	市民によるまちづくり活動が活発であると感じている市民の割合	19.3	21.1	19.7	-1.4	26.1	②	43.9	45.2	61.2	16.0
3	持続可能な行財政運営を進めます	—	—	—	—	—	—	—	60.5	61.3	71.7	10.4
4	自治体間の広域連携や地方分権の推進を図ります	—	—	—	—	—	—	—	51.0	50.3	61.6	11.3

重要度については、基本計画の重点施策が、概ね平均を上回る順位に位置しており、市民が重要と考える施策と一致しています。一方で、満足度については、重点施策の半数以上の指標について、前回と比較して数値が低下していることから、課題の検証及び施策の改善・充実が求められます。

今後も、引き続きめざすまちの姿「持続的に発展し、一人ひとりが輝くまち 枚方」の実現に向け、これまでの方向性を維持しつつ、より効果的な取り組みは当然のことながら、本市が抱える課題や時代の変化に留意し、特色ある施策展開を行っていく必要があります。

【参考】

1. 満足度

順位比較<枚方市の取り組みに対して感じていること：全項目>

『感じている（「感じている」と「やや感じている」の合計）』と答えた市民の割合を順位付けしたもの

単位：％

順位 (前回 順位)	項目	値	順位 (前回 順位)	項目	値	順位 (前回 順位)	項目	値	順位 (前回 順位)	項目	値
1位 (1)	(7)安心して適切な医療が受けられる	59.9	9位 (16)	(23)枚方市駅周辺の賑わい・魅力	40.2	17位 (15)	(14)安心して妊娠・出産できる環境	34.7	25位 (25)	(25)枚方市内での産業活動	20.2
2位 (5)	(4)公共交通機関が整っている	52.1	10位 (11)	(15)安心して子育てできる環境	39.3	18位 (12)	(29)ごみ減量や資源循環	34.7	26位 (24)	(35)市民によるまちづくり活動	19.8
3位 (4)	(5)心身ともに健康に暮らせる	51.5	11位 (10)	(22)気軽にスポーツができる	38.4	19位 (19)	(8)高齢者が地域でいきいきと暮らせる	34.2	27位 (28)	(12)男女共同参画社会	18.1
4位 (2)	(28)みどりとおふれあえる	48.1	12位 (17)	(1)防災体制が整っている	38.1	20位 (23)	(3)安全で快適な道路環境	31.5	28位 (30)	(24)観光資源が生かされている	17.8
5位 (7)	(30)安全で良好な生活環境	47.4	13位 (13)	(32)まちの美化	37.8	21位 (22)	(20)生きがいを持って学び続けられる	27.5	29位 (29)	(26)「農」を守り、生かされている	16.5
6位 (9)	(19)子どもの安全な学習環境	41.9	14位 (18)	(2)身近な安全が確保されている	37.4	22位 (21)	(10)一人ひとりが人権を尊重	26.0	30位 (27)	(34)行政に対し意見を言う場が確保されている	15.5
7位 (8)	(13)平和の大切さが継承されている	41.3	15位 (6)	(33)行政からの情報発信の充実	37.2	23位 (20)	(27)豊かな自然環境が保全されている	24.4	31位 (31)	(31)地球温暖化対策	13.1
8位 (3)	(21)文化芸術に親しめる	41.0	16位 (14)	(18)子どもたちへの教育環境の充実	36.5	24位 (26)	(9)障害者が地域でいきいきと暮らせる	20.8			

2. 重要度

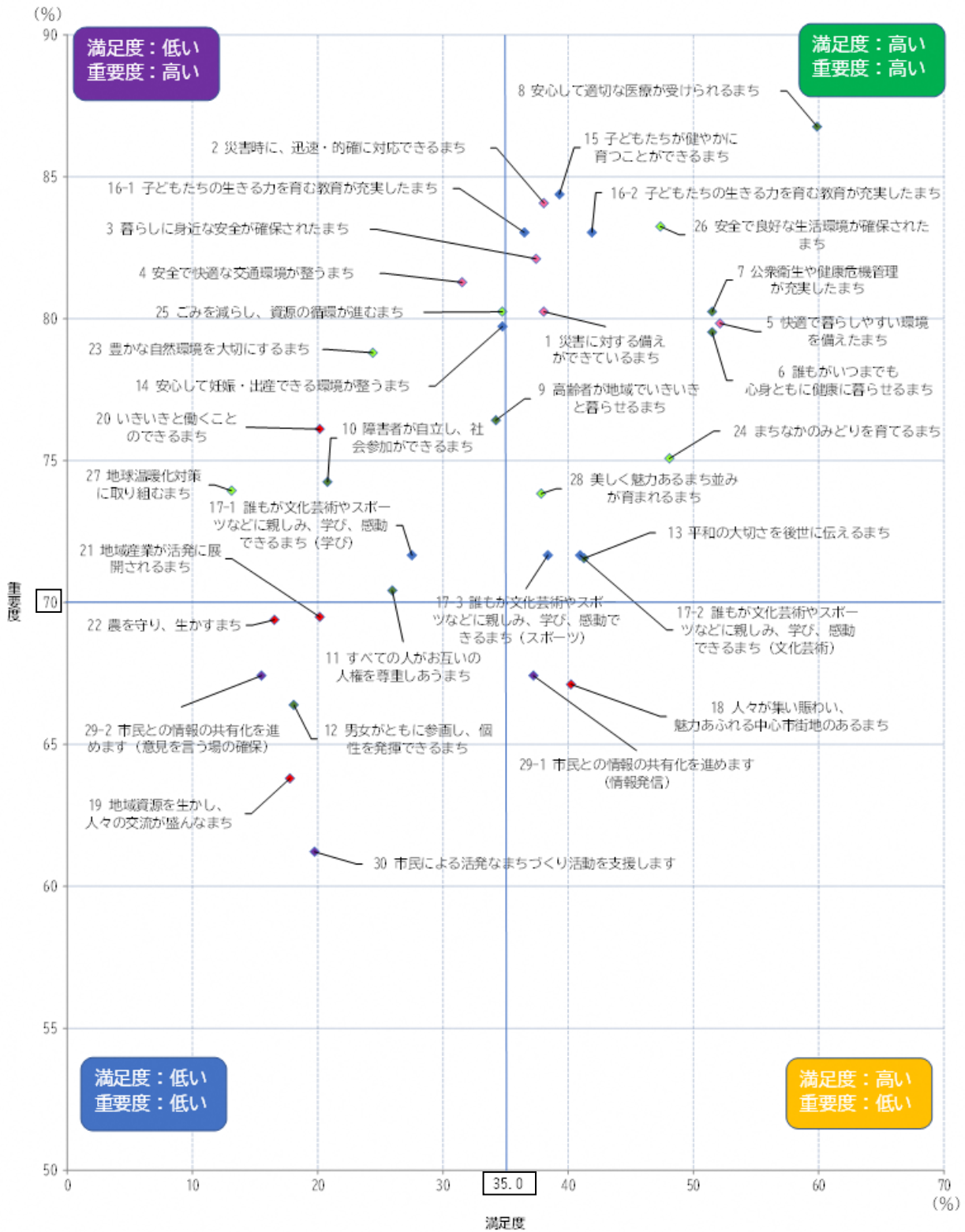
順位比較<枚方市が進める施策の重要度：全項目>

『重要だと思う（「高い」と「やや高い」の合計）』と答えた市民の割合を順位付けしたもの

単位：％

順位	項目	値	順位	項目	値	順位	項目	値	順位	項目	値
1位 (1)	(8)安心して適切な医療を受ける	86.8	9位 (18)	(7)公衆衛生や健康危機管理	80.2	17位 (11)	(24)まちなかのみどりを育てる	75.1	25位 (24)	(21)地域産業を活発に展開する	69.5
2位 (3)	(15)子どもたちが健やかに育つ	84.4	10位 (8)	(1)災害に備える	80.2	18位 (20)	(10)障害者が自立し、社会参加ができる	74.3	26位 (26)	(22)農を守り、生かす	69.4
3位 (6)	(2)災害時に、迅速・的確に対応する	84.1	11位 (14)	(5)快適で暮らしやすい環境	79.8	19位 (21)	(27)地球温暖化対策	73.9	27位 (29)	(29)市民との情報の共有化	67.4
4位 (2)	(26)安全で良好な生活環境	83.2	12位 (10)	(14)安心して妊娠・出産できる	79.7	20位 (15)	(28)美しく魅力あるまち並み	73.8	28位 (25)	(18)魅力あふれる中心市街地をつくる	67.1
5位 (5)	(16)子どもたちの生きる力を育む教育	83.0	13位 (12)	(6)心身ともに健康に暮らす	79.5	21位 (17)	(31)持続可能な行政運営	71.8	29位 (32)	(12)男女共同参画	66.4
6位 (7)	(3)暮らしに身近な安全	82.1	14位 (16)	(23)豊かな自然環境を大切にす	78.8	22位 (22)	(17)文化芸術やスポーツ	71.7	30位 (31)	(19)地域資源を生かし、人々の交流を盛んにする	63.8
7位 (9)	(4)安全で快適な交通環境	81.3	15位 (13)	(9)高齢者が地域でいきいきと暮らす	76.4	23位 (23)	(13)平和の大切さを後世に伝える	71.6	31位 (28)	(32)自治体間の広域連携や地方分権	61.5
8位 (4)	(25)ごみを減らし、資源の循環を進める	80.2	16位 (19)	(20)いきいきと働くことができる	76.1	24位 (27)	(11)人権尊重	70.4	32位 (30)	(30)市民による活発なまちづくり活動	61.2

【参考】施策目標ごとの重要度と満足度の散布図



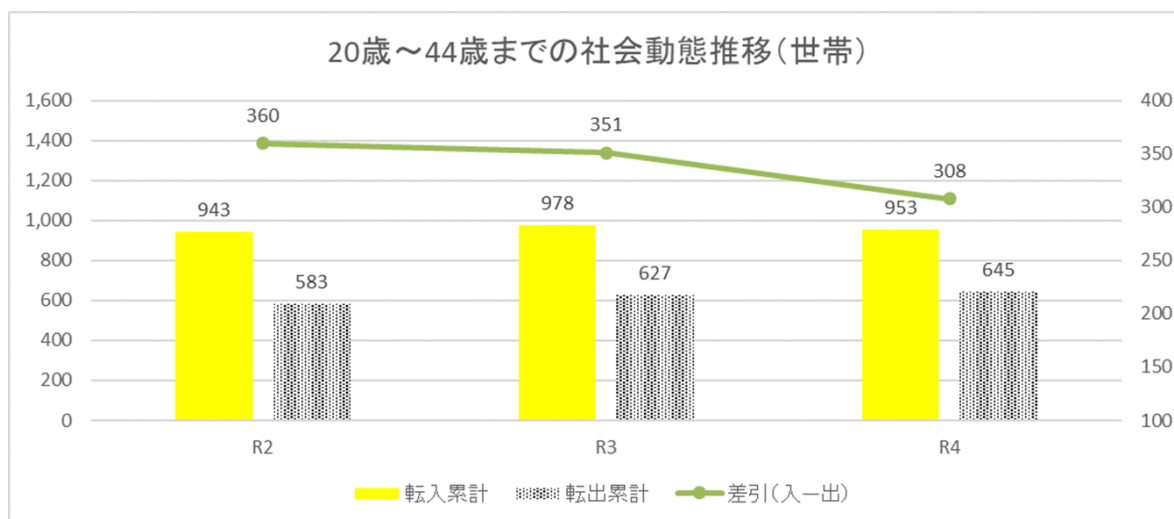
3. 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）の総括評価

「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）」（以下「第2期総合戦略」とします。）では、人口ビジョンで示した将来展望の推計に近づけるため、令和2年度から令和5年度までの4か年を期間として、2つの政策指標を掲げるとともに、3つの基本目標を定め、取り組みを進めてきました。

1. 取り組み目標の実績

第2期総合戦略では、持続可能な都市経営において、人口は重要な要素の一つであるとし、令和2年～令和5年の4年間に、子育て世帯について、累計1,500世帯の転入超過とすることを取り組み目標としています。

	年間目標	実績値	合計差額
R2	375	360	/
R3	375	351	
R4	375	308	
R5	375	-	
	1,500	1,019	



令和2年から令和5年の子育て世帯の転入超過の累計は、1,019世帯となっており、目標値に向け順調に推移しています。

2. 政策指標の推移

第2期総合戦略では、市民の定住や市外からの人口誘導を促進するため、本市への定住意向や住みよさの向上を政策指標として設定しました。これまでの推移は次のとおりです。

※政策指標の値は、令和元年及び令和5年に実施した市民意識調査によるものです。

評価については、政策指標の推移を踏まえ、①…目標値を達成したもの、②…目標値には至らなかったが、策定時の値を上回っているもの、③…策定時の値を下回っているものの3段階で評価しています。

政策指標の推移	策定時 R 1	R 5	目標値	分類
政策指標1：本市への定住意向を示す市民の割合	89.2	82.7	92.2	③
政策指標2：本市を住みよと感じる市民の割合	80.1	78.3	83.1	③

本市への定住意向や住みよさの向上を測るための政策指標については、高い水準を維持してはいるものの、政策指標1・2ともに策定時の値より低下しています。

3. 3つの基本目標に関する指標の推移

政策指標の達成に向け、国や大阪府の総合戦略の政策分野を勘案しながら、人口減少に対応するための効果的な取り組みを集中的に実施していく観点から、一定のまとまりの政策分野ごとに基本目標を定め、基本目標の実現に向けた主観的成果指標を設定しました。これまでの推移は次のとおりです。

※主観的成果指標の値は、令和元年及び令和5年に実施した市民意識調査によるものです。

評価については、主観的成果指標の推移を踏まえ、①…目標値を達成したもの、②…目標値には至らなかったが、策定時の値を上回っているもの、③…策定時の値を下回っているものの3段階で評価しています。

基本目標1 安心して子どもを産み育てることができ、子どもの健やかな成長と学びを支える

	施策目標	主観的成果指標	策定時 R 1	R 5	目標値	分類
1	安心して妊娠・出産できる環境が整うまち	安心して妊娠・出産できる環境が整っていると感じている市民の割合	38.5	34.7	43.5	③
2	子どもたちが健やかに育つことができるまち	安心して子育てできる環境が整っていると感じている市民の割合	44.5	39.3	49.5	③
3	子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち	子どもたちへの教育環境が充実していると感じている市民の割合	39.4	36.5	44.4	③

基本目標2 市民の健康増進や地域医療の充実を図る

	施策目標	主観的成果指標	策定時 R 1	R 5	目標値	分類
1	誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち	心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合	56.1	51.5	61.1	③
2	公衆衛生や健康危機管理が充実したまち					
3	安心して適切な医療が受けられるまち	安心して適切な医療が受けられる環境が整っていると感じている市民の割合	49.6	59.8	62.5	②
4	高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち	高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合	30.0	34.2	35.0	②

基本目標3 産業の活性化と人々の交流・賑わいの創出によりまちの魅力を高める

	施策目標	主観的成果指標	策定時 R 1	R 5	目標値	分類
1	地域産業が活発に展開されるまち	市内での産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合	20.7	20.2	25.7	③
2	いきいきと働くことのできるまち					
3	安全で快適な交通環境が整うまち	安全で快適な道路環境が整っていると感じている市民の割合	30.2	31.6	35.2	②
4	快適で暮らしやすい環境を備えたまち	公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合	41.9	52.1	46.9	①
5	人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち	枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じている市民の割合	42.6	40.2	47.6	③
6	地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち	市の観光資源が生かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合	21.2	17.8	24.2	③

基本目標1については、子育て世帯が転入超過で推移する一方、すべての主観的成果指標が策定時の値を下回っており、妊娠・出産、子育て、教育などの施策に対するニーズの高まりがうかがえます。

基本目標2については、心身の健康に関する主観的指標が目標値を下回っており、新型コロナウイルス感染症の拡大という前回調査以後の状況に鑑みると、特に健康危機管理体制の充実に対するニーズの高まりがうかがえます。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による健康不安や外出自粛にも関わらず、医療施策については10.2ポイント、高齢者施策については4.2ポイント上昇しており、目標値には至らなかったものの、取り組みによる一定の効果がうかがえます。

基本目標3については、公共交通環境に関する主観的成果指標が10.2ポイント上昇し、目標値を上回っています。また、安全・快適な道路環境に関する主観的成果指標についても、目標値には至らなかったものの、1.4ポイント上昇しており、取り組みにより一定の効果があつたことがうかがえます。一方で、産業活動や市駅前のにぎわい、観光などに関する主観的成果指標が策定時の値を下回っており、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベントの中止・制限などの影響がうかがえます。

4. 各施策目標に対する重要業績評価指標（KPI）の推移

各施策目標に対する重要業績評価指標（KPI）の推移については、全85指標のうち43指標（50.6%）が、策定時の値を上回っており、14指標（16.5%）が、目標値を達成しています。一方で、42指標（49.4%）については、策定時の値を下回っています。

子育て世帯については、令和2年以降、300世帯以上の転入超過が続いており、政策指標等の推移については課題があるものの、第2期総合戦略に基づく取り組みにより、一定の効果があつたものと総括します。

今回の総括評価に係る市民意識調査や施策評価の結果を踏まえ、目標達成につながる具体的な施策における課題を検証するとともに、次期総合戦略の策定に向けて、施策の改善や新たな施策の検討を進めます。また、施策評価における外部評価委員の意見から、施策目標の進捗管理のため、より適切な重要業績評価指標（KPI）の設定が必要となっています。

総括評価シート

基本目標	安全で、利便性の高いまち
施策目標	1. 災害に対する備えができているまち
4つの重点的に進める 施策との関係	
取り組みの方向	<p>1-① 市の防災体制の強化を図るとともに、市民一人ひとりが防災意識を高め、大規模災害の発生に備えます。</p> <p>1-② 市民、市民団体、事業者、行政がお互いに協力し合える関係をつくることで、地域における防災力の向上を図ります。</p> <p>1-③ 地震等の災害発生時に、被害を軽減できるよう、建築物の耐震化や、道路、橋梁、上下水道などの都市基盤の計画的な維持管理を図るなど、災害に強い、まちづくりを進めます。</p> <p>1-④ 公共下水道の雨水排水施設の適切な管理や計画的な整備を進めるなど、浸水被害の軽減を図ります。</p>

関連する実行計画

1-1	防災体制の充実
1-2	防災対策の推進
1-3	水施策の推進

（主観的指標の推移）	【満足度】 防災体制が整っていると感じている市民の割合					【重要度】 災害に備えるための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
	%	R1		R5	R5	R1		R5	-	
		36.7	→	38.0	40.2	%	67.1	→	80.2	-

（客観的指標の推移）	1-① 重要物資備蓄目標達成率					1-② 自主防災組織が年1回以上の訓練を実施した割合						
	指標の説明	重要物資備蓄品のなかで特に重要であるアルファ化米と毛布の備蓄量/備蓄目標量				指標の説明	年1回以上の訓練を実施した自主防災組織の数/全自主防災組織の数					
単位	実績				目標	単位	実績				目標	
%	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5	
		148.6	127.1	127.1	146	100		86.7	44.0	48.8	53.8	93

（客観的指標の推移）	1-③ 民間木造住宅耐震改修戸数（累計）					1-③ 橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕率					
	指標の説明	「枚方市木造住宅耐震改修補助金交付要綱」に基づく木造住宅耐震改修補助等により改修・除却（解体）した戸数（累計）				指標の説明	橋梁長寿命化修繕計画に基づく整備済橋梁数/計画における整備予定橋梁数				
単位	実績				目標	単位	実績				目標
戸	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5
		649	687	713	752	900			16.2	29.7	37.8

（客観的指標の推移）	1-④ 主要な雨水幹線管渠の整備率					
	指標の説明	主要な雨水幹線管渠の整備延長距離/計画延長距離				
単位	実績				目標	
%	R1	R2	R3	R4	R5	
		45.7	46.3	46.3	46.3	45.6

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「防災体制が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.3ポイント上昇しましたが、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については令和元年度の値と比較して、13.1ポイント上昇しています。

・施策指標「重要物資備蓄目標達成率」については、既に目標値を達成しています。

・施策指標「自主防災組織が年1回以上の訓練を行った割合」については、令和元年度の値(86.7%)と比較して32.9ポイント低くなっており、目標値達成に向けて引き続き取り組みを進める必要があります。

・施策指標「民間木造住宅耐震改修件数」については、令和元年度の値と比較して103戸増加しているものの、目標値達成のためには、さらに148戸の増加が必要です。

・施策指標「橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕率」については、令和2年度に橋梁長寿命化修繕計画を見直したことから、令和3年度から新たに目標値を設定した。令和3年度の値(16.2%)と比較して13.5ポイント上昇しているものの、目標値達成に向けて引き続き取り組みを進める必要があります。

・施策指標「主要な雨水幹線管渠の整備率」については、令和元年度の値(45.7%)と比較して0.6ポイント上昇しており、目標値を達成しています。

課題や今後の対応

5つの客観的指標のうち、2つについては既に目標値を達成しました。残りの3つのうち、特に、施策指標「自主防災組織が年1回以上の訓練を行った割合」については、令和元年度の値を下回る状況が継続しており、災害発生時の自助・共助に関わる取り組みであることから、これまでの取り組みを検証し、早急な対応が必要です。

主観的指標の推移については、満足度・重要度ともに令和元年度と比較して上昇しています。特に重要度については、大きく上昇していることから、市民の防災意識の高まりに应运じていく必要があります。

今後は、避難行動要支援者を対象とする避難支援や、風水災害時における効率的な避難に向けた取り組みを進めます。

【施策評価員の評価】

○客観指標について目標達成済みとされるが、備蓄のそもそもの目標値が妥当であったのか、雨水幹線の整備は最初から目標を達成していたのではないかなど、客観的な目標値の設定に失敗している印象を受ける。また、市民意識からすると、重要度が高まると満足度が低くなる可能性はあるとしても、市としての取り組みに緩みがないか、市民の期待に応えるだけの活動になっていないことを認識して、今後の対策を検討しておく必要がある。

○コロナ前の「自主防災組織が年1回以上の訓練を行った割合」については目標値を達成していることから、今後は徐々にコロナ前の数値に戻ることを期待したい。なお、災害への対応や対策については、市の最重要課題の一つになってくるかと思うが、地域によっても災害への懸念事項は異なってくるため、各中学校区もしくは小学校区かつ幅広い世代から懸念事項を吸い上げ、それを市としての取り組みの優先順位の検討に活用していく必要がある。また、避難行動要支援者の把握方法や外国籍住民への啓発方法、備蓄場所や避難所としてのさらなる提供場所の確保など、校区ごとの事情に応じた柔軟な対応ができるよう、市が作業工程やスケジュールを提示してはどうか。それが、校区ごとに災害への懸念事項や必要な支援を整理することにつながり、ひいては、防災意識の醸成につながるのだと思う。

○自主防災組織の実状に即した共助と公助の役割分担について、検討を行うべきである。

○団体・地域による意識の温度差を如何に是正するか、実質的な研究が必要である。備蓄数量は充分であるが、数量だけではなく如何に配布するか、配布ルートのアナログ的検証が望まれる。また、インフラのメンテナンスは計画に基づき粛々と進めるべきである。

総括評価シート

基本目標	安全で、利便性の高いまち
施策目標	2. 災害時に、迅速・的確に対応できるまち
4つの重点的に進める 施策との関係	
取り組みの方向	<p>2-① 災害情報などの緊急情報について、さまざまな情報発信手段を活用しながら、迅速かつ正確に地域に提供する体制を整えます。</p> <p>2-② 災害発生時に迅速な医療の応急処置活動が行える体制を整備します。</p> <p>2-③ 災害発生後から中長期間にわたり、地域に密着した継続的な公衆衛生活動が行える体制づくりを進めます。</p> <p>2-④ 災害が発生した際には、市民、市民団体、事業者、行政がお互いに連携し、被害の軽減を図ります。</p>

関連する実行計画

2-1	災害時の応急処置活動の充実
2-2	災害時の情報通信体制の整備

(主観的指標の推移)	【満足度】 防災体制が整っていると感じている市民の割合					【重要度】 災害時に、迅速・的確に対応するための施策が重要だ と思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	36.7	→	38.0	40.2	%	70.1	→	84.1	-

(客観的指標の推移)	2-① 災害時の情報発信手段の整備件数					2-① ひらかた安全安心メール登録者数						
	指標の説明	防災行政無線、メール、ツイッターなど災害時の情報発信手段の整備件数				指標の説明	防災・防犯情報を携帯電話等を通じて迅速に配信する「ひらかた安全安心メール」の登録者数					
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
		R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
	件	9	10	10	10	10	人	2350	2,396	-	-	3,900
	2-④ 救急車の平均到着時間【社会指標】					2-④【再掲】 自主防災組織が年1回以上の訓練を実施した割合						
	指標の説明	救急車を呼んでから病院に到着するまでの平均所要時間				指標の説明	年1回以上の訓練を実施した自主防災組織の数／全自主防災組織の数					
	単位	実績				めざすべき方向	単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5	
分	34.21	33.0	35.0	39.0	↘	%	86.7	44.0	48.8	53.8	93.0	

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「防災体制が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.3ポイント上昇していますが、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して14ポイント上昇しています。

・施策指標「災害時の情報発信手段の整備件数」については、既に目標値を達成しています。

・施策指標「ひらかた安全安心メール登録者数」については、市CMSの更新に伴い、安全安心メールが令和3年12月末をもって配信を終了し、実績値は令和2年度までとなっています。これに替わるものとして、市公式LINEでの防災情報発信に取り組んでいます。

・施策指標「救急車の平均到着時間」については、令和元年度の値(34.21分)と比較して4.79分長くなっており、めざすべき方向に向けて引き続き取り組みを進める必要があります。

・施策指標「自主防災組織が年1回以上の訓練を行った割合」については、令和元年度の値(86.7%)と比較して32.9ポイント低くなっており、目標値達成に向けて引き続き取り組みを進める必要があります。

課題や今後の対応

4つの客観的指標のうち、1つの客観的指標が目標値を達成しておらず、1つがめざすべき方向と逆方向に推移しています。新型コロナウイルス感染症の影響もあることから、施策の是非の判断は慎重に行う必要がありますが、発生が予測できない災害に、迅速・的確に対応できるよう取り組みを継続する必要があります。

主観的指標の推移については、満足度・重要度ともに令和元年度と比較して上昇しています。特に重要度については、大きく上昇していることから、市民の防災意識の高まりに応じていく必要があります。

今後は、自助・共助・公助の連携による被害軽減に向けた取り組みをさらに推進していきます。

【施策評価員の評価】

○災害対策体制は市民の意識とは裏腹に、弱体化しているのではないかとLINEへの移行の実績も見えないといけませんが、必ずしも進んでいるとは思えない。市民の行動に働きかける活動が不足しているのではないかと。また救急医療体制や医療機関との連携の不十分さも危惧される。

○LINEによる防災情報では限られた世代にしか行き届かない可能性もあり、特に今の高齢者世代ではLINEを使っている人も比較的少ないことが予想されるため、回覧板や広報ひらかた、スーパーや医療機関、福祉施設、地域で高齢者の集まる場などでの案内など、災害だけの話ではないが、さまざまな世代に正確な情報が行きわたるように発信方法を検討する必要がある。

○連携の実地訓練は早急に実施する必要がある。リスク回避のため、複数の情報伝達ルートが必要であり、またそれぞれ実際に届いているかの、検証が必要である。

総括評価シート

基本目標	安全で、利便性の高いまち
施策目標	3. 暮らしに身近な安全が確保されたまち
4つの重点的に進める 施策との関係	
取り組みの方向	<p>3-① 警察・行政などの機関と地域が連携を強化しながら、防犯体制の整備を進めるとともに、地域の防犯意識を高め、支えあいによる防犯力の向上を図ります。</p> <p>3-② 消費者被害の未然防止や被害の回復を図るため、消費者の意識啓発や相談体制の充実を図ります。</p> <p>3-③ 個人の権利利益を保護するため、個人情報の適正な管理を図ります。</p>

関連する実行計画

3-1	地域の防犯対策の充実
3-2	安全な消費生活の推進

(主観的指標の推移)	【満足度】 防犯体制が整い、身近な安全が確保されていると感じる市民の割合				【重要度】 暮らしに身近な安全を確保するための施策が重要だと思う市民の割合					
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	35.4	→	37.5	38.4	%	67.2	→	82.1	-

(客観的指標の推移)	3-① 犯罪発生件数【社会指標】					3-② 消費者相談のうち解決済の割合						
	指標の説明		市内の刑法犯罪発生件数（1日あたり）			指標の説明		消費者相談解決済件数（あっせん不調・処理不能を除く）／消費者相談件数（年度内処理済件数）				
	単位	実績				めざすべき方向	単位	実績				目標
		R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
	件	5.3	4.5	4.0	4.0	↘	%	97.6	98.0	98.4	98.5	98.3

(客観的指標の推移)	3-③ 個人情報の保護等に関する研修等の実施回数					
	指標の説明		個人情報の取扱いに関する研修の参加者数（累計）			
	単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5	
	回	123	1611	2755	4120	428

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「防犯体制が整い、身近な安全が確保されていると感じる市民の割合」については、令和元年度の値と比較して2.1ポイント上昇していますが、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して14.9ポイント上昇しています。

・施策指標「犯罪発生件数」については、令和元年度の値と比較して1.3ポイント減少しており、めざすべき方向に沿った推移をしています。

・施策指標「消費者相談のうち解決済の割合」については、既に目標値を達成しています。

・施策指標「個人情報の取扱いに関する研修の参加者数(累計)」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度から令和4年度は、個人情報を取り扱う全職員を対象に研修資料を配布し、効果測定を実施させる方式により研修を実施したこともあり、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、施策全体として一定の成果があったと考えられます。また、主観的指標の推移については、重要度が大きく上昇しているものの、満足度は目標値の達成に至りませんでした。全国的にも高齢者の特殊詐欺被害が多発しており、市民の防犯意識の高まりに応えられるよう、引き続き取り組みを進める必要があります。

今後は、警察をはじめ、関係機関や地域との連携を強化し、消費者被害の未然防止・早期解決に向けた取り組みを推進していきます。また、防犯灯や街頭防犯カメラの維持・向上など、犯罪が起きにくい環境づくりに取り組みます。

【施策評価員の評価】

○犯罪防止には、地域住民の意識と行動、地域団体の活動の活性化が重要であるが、その姿が見えない施策と評価になっている。カメラ設置だけではなく、犯罪多発地域について、街区の構造を検討していく必要があるのではないかと。また消費者行政については、消費生活相談の質の向上、相談員の確保などが将来にわたってすすめられなければならない。なお日常の見守り活動も重要であり、多くの主体による協調的な活動を具体的に確保することが求められている。そのための指標開発も工夫が必要である。

○高齢者世代の中には、スマホなどを十分に扱えない方もおられるため、回覧板や広報ひらかたによる案内に加え、医療機関や福祉施設、地域の高齢者の集まる場において、市役所や警察などによる講習会を実施するなど、地道な活動により被害防止につなげる必要がある。

○青パト巡回の抑止効果の検証をするべきである。また、その効果を広報する事により意識の向上につなげるなど、啓発手法の研究と実践により、PDCAを廻す必要がある。

総括評価シート

基本目標	安全で、利便性の高いまち
施策目標	4. 安全で快適な交通環境が整うまち
4つの重点的に進める施策との関係	4. 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる
取り組みの方向	<p>4-① 交通渋滞の緩和や安全な交通環境を確保するため、市内の幹線道路の整備や京阪本線連続立体交差事業を進めるとともに、生活道路の改善を図ります。</p> <p>4-② 交通渋滞の緩和や都市間交流の活性化、防災面での広域連携を図るため、広域的な幹線道路等の整備に向けて取り組みます。</p> <p>4-③ 日常生活において安全に歩行できるように、快適な歩行空間の整備に取り組むとともに、交通事故の防止を図るため、自転車や歩行者の交通安全意識の向上を図ります。</p>

関連する実行計画

4-1	道路などの整備の推進
4-2	交通安全対策の充実

（施策指標の推移）	【満足度】 安全で快適な道路環境が整っていると感じている市民の割合				【重要度】 安全で快適な交通環境を整えるための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標 R5	単位	実績		
		R1		R5			R1		R5
%	30.2	→	31.6	35.2	%	66.3	→	81.3	-

(客観的指標の推移)	4-① 幹線道路の整備率					4-③ 交通事故件数(車両)【社会指標】						
	指標の説明		国道、府道を含む幹線道路の整備延長距離/計画延長距離			指標の説明		市内で発生した車両が関わる交通事故件数				
	単位	実績				目標	単位	実績				めざすべき方向
	%	R1	R2	R3	R4	R5	件	R1	R2	R3	R4	R5
	60.2	60.2	60.4	60.9	64.1		1,188	1,127	1,059	1,173	↘	
(客観的指標の推移)	4-② 国道1号における交通量【社会指標】					4-③ 歩道の設置延長距離						
	指標の説明		国道1号における交通量(1日あたり・12時間調査)			指標の説明		市道における歩道設置延長距離				
	単位	実績				めざすべき方向	単位	実績				目標
	台	R1	R2	R3	R4	R5	km	R1	R2	R3	R4	R5
	45,788	43,629	44,178	43,389	↘	117.3	118.5	120.1	120.1	120.0		
(客観的指標の推移)	4-③ 交通事故件数(歩行者・自転車)【社会指標】					4-③ 交通安全に関する啓発イベント・教室講習等の参加者数						
	指標の説明		市内で発生した自転車や歩行者が関わる交通事故件数			指標の説明		自転車や歩行者などの交通安全に関する啓発イベント・教室講習等の参加者数				
	単位	実績				めざすべき方向	単位	実績				目標
	件	R1	R2	R3	R4	R5	人	R1	R2	R3	R4	R5
	416	428	414	440	↘	20,808	0	6,524	10,165	25,000		

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「安全で快適な道路環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.4ポイント上昇しているものの、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して15ポイント上昇しています。

・施策指標「幹線道路の整備率」については、実績値として示されるのが供用開始をした道路であることから、令和元年度からの伸びは0.7ポイントと緩やかになっています。もっとも、各路線において用地取得や詳細設計、道路整備工事は滞りなく進められており、令和5年度目標値は達成見込みとなっています。

・施策指標「国道1号における交通量」については、令和元年度の値と比較して2,399台減少しており、めざすべき方向に沿った推移をしています。

施策指標「歩道の設置延長距離」については、既に目標値を達成しています。

施策指標「交通安全に関する啓発イベント・教室講習等の参加者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種イベントが実施されなかった時期もありましたが、状況が落ち着くに連れ参加者は増加しており、目標値達成に向け、引き続き取り組みを進める必要があります。

社会指標である「交通事故件数」については、ほぼ横ばいで推移しており、引き続き取り組みを進める必要があります。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、目標値達成が不透明な指標があるものの、施策全体として見れば一定の成果はあったと考えられます。もっとも、主観的指標の推移を見ると、満足度が目標値の達成に至らなかった一方で、重要度が令和元年度と比較して大きく上昇していることから、令和5年度供用開始予定の道路の着実な整備を含め、道路交通行政に対する市民ニーズの高まりに応えていく必要があります。

今後は、京阪本線連続立体交差事業の早期の完了に向け、全事業用地の取得を推進していきます。また、歩行者の安全対策が必要な道路の歩道拡幅や歩道設置を計画的に行い、安全で快適な歩行空間の整備に取り組みます。

【施策評価員の評価】

○連立と幹線道路整備など主要事業がもたらす効果を示す目標値の設定が必要である。広告料や交通速度、交通事故件数などが指標となる。また交通安全対策は、市民への働きかけや、安全施設、設備の効果が不明確であり、獲得目標を精査する必要がある。

○「ながらスマホ」や「イヤホンを入れながら」の自転車走行や歩行者も見られ、特に若い世代を中心によく見かけられることから、ショート動画やSNSで、注意喚起や事故によるさまざまな代償などの説明を定期的に発信するなど、発信に工夫が必要である。

○自転車の安全講習・取り締まりに注力すべき。交通環境の整備と共に、公共交通機関の利便性を高める事が事故減少に繋がる。

総括評価シート

基本目標	安全で、利便性の高いまち
施策目標	5. 快適で暮らしやすい環境を備えたまち
4つの重点的に進める施策との関係	4. 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる
取り組みの方向	<p>5-① 市民生活の利便性向上や環境負荷の低減などを図るため、効率的で利便性が高く、持続可能な公共交通環境の整備を図るとともに、公共交通機関の利用を促進します。</p> <p>5-② 利便性の高い都市環境をめざし、医療施設や福祉施設、商業施設などの都市機能の集約を図る拠点を適正に配置し、効率的・効果的な都市整備を進めます。</p> <p>5-③ 今後、増加することが見込まれる管理不良な空き家・空き地の発生抑制などを図るため、空き家・空き地の適正管理及び活用を促進します。</p>

関連する実行計画

5-1	公共交通環境の整備
5-2	空き家、空き地等の適正管理の推進

(主観的指標) 施策指標の推移	【満足度】 公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合					【重要度】 快適で暮らしやすい環境を備えるための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
	%	R1		R5	R5	%	R1		R5	-
	41.9	→	52.1	46.9		62.7	→	79.8	-	

(客観的指標) 施策指標の推移	5-① 公共交通利用促進啓発イベントの参加者数					5-① 京阪バス主要停留所乗降客数の市域人口に対する割合【社会指標】						
	指標の説明	鉄道やバスなど公共交通の利用を促進する啓発イベントの参加者数(累計)				指標の説明	京阪バスの主要停留所(枚方市駅、樟葉駅、長尾駅)における乗降客数(日あたり)/市域人口					
	単位	実績				目標	単位	実績				めざすべき方向
	人	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5
	5,231	5,327	5,744	6,137	8,000		15.3	15	10.7	11.9	↗	

(客観的指標) 施策指標の推移	5-② 鉄道駅利用者の市域人口に対する割合【社会指標】					5-③ 特定空家等に指定した空家等の改善率						
	指標の説明	市内鉄道駅(京阪電鉄9駅、JR片町線3駅)の乗降客数(日あたり)/市域人口				指標の説明	周囲への危険性が高いと市が判断して「特定空家等」と認めた物件のうち、危険が取り除かれ指定の解除に至った数/「特定空家等」と認めた物件の数					
	単位	実績				めざすべき方向	単位	実績				目標
	%	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5
	71.5	72.9	60.3	54.1	↗		50	50	100	0	100	

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「公共交通機関が整っているなど都市機能が充実していると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して10.2ポイント上昇しており、目標値を達成しました。また、重要度についても、令和元年度の値と比較して17.1ポイント上昇しています。

・施策指標「公共交通利用促進啓発イベントの参加者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベント中止等の影響により、目標値の達成は不透明となっています。

・施策指標「京阪バス主要停留所乗降客数の市域人口に対する割合」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度の値を下回る状況が継続しており、今後も推移を注視する必要があります。

・施策指標「鉄道駅利用者の市域人口に対する割合」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道利用者が減少したことから、めざすべき方向とは逆方向に推移しています。

・施策指標「特定空家等に指定した空家等の改善率」については、令和3年度に目標値を達成したものの、令和4年度末に「特定空家等」の認定(1件)を行ったことから、令和4年度実績が0%となっています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものがあり、施策の是非の判断は慎重に行う必要がありますが、感染症分類の変更による社会活動の正常化に伴い、社会指標がどのように推移するか、今後の市駅前再開発による影響も踏まえ、注視していく必要があります。

主観的指標の推移を見ると、満足度・重要度ともに高水準で推移しており、施策として一定の成果があったと考えられます。

今後は、市の関連部署及び地域住民等と連携し、空き家・空き地等の発生を抑制するとともに、その所有者等とまちづくりや地域の活性化、公共的課題の解決に取り組む団体・グループ等とのマッチングを行うなど、空き家・空き地等の活用の仕組みづくりを推進します。

【施策評価員の評価】

○人口減少、高齢化、感染症の影響による新しい生活様式の常態化などを前提にした施策の在り方が求められており、従来型の公共交通の利便や利用増加ではなく、市民生活の実態に沿った生活空間の整備やその条件の充足が求められている。交通弱者の解消、近隣住居環境の維持改善などに目標を変えていく必要がある。

○人口減少に加え、高齢化や血縁の希薄化も相まって、空き家や空き地、場合によっては所有者不明などの状況は今後、より一層増えるものと思われる。そのため、空き家や空き地の調査や所有者不明の実態調査などを定期的に確認する機会を施策の中に盛り込む必要がある。

○公共交通機関の利便性は、住みやすさと直結するため事業者との日頃からの意思疎通が必要である。

○人生のライフサイクルに伴う、住宅の流通の活性化を業界と協働することが望まれる。

総括評価シート

基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	6 誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らせるまち
4つの重点的に進める 施策との関係	3 誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる
取り組みの方向	<p>6-① 「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」において、関係団体が連携しながら、多彩な連携事業の展開を通じて、市民の健康増進を図ります。</p> <p>6-② 誰もが日頃から健康づくりに取り組めるよう、健康増進に関する情報提供や相談体制の充実を図ります。</p> <p>6-③ あらゆる世代の人が、いつでも気軽にスポーツなどの健康づくりに取り組むことができる環境づくりを進めます。</p> <p>6-④ 各種健（検）診の受診者を増やす取り組みなどを通じて生活習慣病をはじめとする疾病の予防・早期発見を進めるとともに、食育や歯科口腔保健の推進を図ります。</p> <p>6-⑤ こころの病気の早期発見や早期対応に向けた取り組みを進めます。</p> <p>6-⑥ 難病に対する理解を深めるとともに、医療や介護、福祉の連携を図りながら、難病患者が地域で安心して暮らせる環境づくりを進めます。</p> <p>6-⑦ 薬物による健康被害を防ぐため、薬物乱用防止に向けた取り組みを進めます。</p>

関連する実行計画

6-1	保健医療制度の充実
6-2	健康づくりの推進
6-3	地域福祉の推進

(主観的指標の推移)	【満足度】 心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合					【重要度】 誰もがいつまでも心身ともに健康に暮らすための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
	%	R1		R5	R5	%	R1		R5	-
	56.1	→	51.5	61.1		64.9	→	79.5	-	

6-① コンソーシアム連携事業への参加人数					6-② 健康づくりに関する教室・講演会への参加者数						
指標の説明		健康・医療に関わる市内団体により構成される「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」の連携事業への参加人数(会議を除く研修会講習会への参加人数)			指標の説明		ウォーキングなど健康づくりに関する教室・講演会への参加者数				
単位	実績				目標	単位	実績				目標
人	R1	R2	R3	R4	R5	人	R1	R2	R3	R4	R5
	13,371	563	1,012	5,142	12,000		14,890	3,298	34,804	24,992	16,800

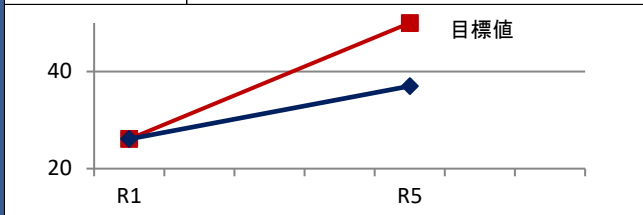
6-③ スポーツイベントの参加者数					6-④ 特定健康診査受診率						
指標の説明		各種スポーツ教室など地域におけるスポーツイベントの参加者数			指標の説明		高齢者の医療の確保に関する法律に定める特定健康診査の受診者/対象者(国民健康保険に加入する40歳以上75歳未満の者)				
単位	実績				目標	単位	実績				目標
人	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5
	40,490	15,199	22,159	31,897	47,000		33.7	30.1	31.2	33.3	40

6-④ 大腸がん検診受診率					6-⑤ こころの健康相談の相談件数						
指標の説明		市が実施する大腸がん検診の受診者/対象者(40歳以上70歳未満の者)			指標の説明		うつ病などこころの病気について医療に係る相談を実施するこころの健康相談件数				
単位	実績				目標	単位	実績				めざすべき方向
%	R1	R2	R3	R4	R5	件	R1	R2	R3	R4	R5
	9.0(旧基準)	8.3(旧基準)	6.7	9.1	40		6,619	4,224	5,735	5,189	↘

（客観的指標の推移）

6-⑤ こころの病気に関する相談窓口を知っている市民の割合

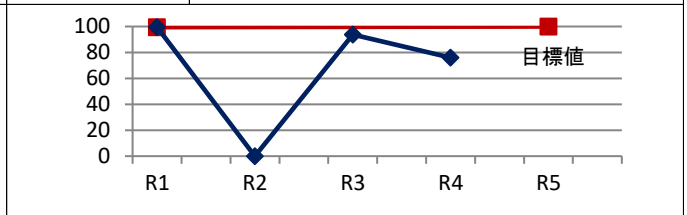
指標の説明 (市民意識調査により把握)



単位	実績			目標
	R1		R5	R5
%	26.1	→	37	50

6-⑥ 指定難病医療費助成制度更新申請者の療養状況把握

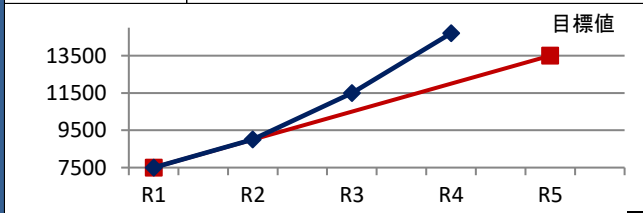
指標の説明 療養状況を把握できた者の数/指定難病医療費助成制度更新申請者数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	99.5	-	93.8	75.9	100

6-⑦ 薬物乱用防止に向けた支援件数（累計）

指標の説明 薬物乱用防止キャンペーンでの啓発資材の配布数（累計）



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
枚	7,500	9,000	11,500	14,700	13,500

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して4.6ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については14.6ポイント上昇しています。
- ・施策指標「コンソーシアム連携事業への参加人数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベント中止等の影響により、実績は低水準となっており、目標値の達成は不透明となっています。
- ・施策指標「健康づくりに関する教室・講演会への参加者数」については、オンライン講座や動画の配信を併用することで、既に目標値を達成しました。
- ・施策指標「スポーツイベントの参加者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベント中止等の影響により、実績は低水準となっており、目標値の達成は不透明となっています。
- ・施策指標「特定健康診査受診率」については、令和元年度以降目標値に向かって推移しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う受診控えもあり、目標値の達成には至っておらず、引き続き取り組みを進める必要があります。また、「大腸がん検診受診率」はほぼ横ばいで、目標値の達成は困難となっています。
- ・施策指標「こころの健康相談の相談件数」については、令和元年度の値と比較して1,430件減少しているものの、ほぼ横ばいで推移しています。また、「こころの病気に関する相談窓口を知っている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して10.9ポイント上昇していますが、目標値の達成には至りませんでした。
- ・施策指標「指定難病医療費助成制度更新申請者の療養状況把握割合」については、新型コロナウイルス感染拡大を受け、受給者証の更新手続きが郵送申請へ変更になり、療養状況を把握するためのアンケートの提出率が低下したため、令和元年度の値と比較して23.6ポイント下落し、目標値の達成は不透明となっています。
- ・施策指標「薬物乱用防止に向けた支援件数」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

9つある客観的指標のうち、2つについては、既に目標値を達成していますが、その他についてはおおむね目標値に向かって推移しているものの、令和5年度での達成は不透明又は困難な状況となっています。また、主観的指標の推移によると、満足度については令和元年度と比較して下落している一方で、重要度は令和元年度と比較して大きく上昇しており、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に市民の健康への関心が増していることが窺われます。

イベントを中心に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた取り組みもあり、施策の是非の判断は慎重に行う必要がありますが、病気の早期発見の重要性をより一層啓発するとともに、市民が主体的に健康づくりに取り組むことができるよう、医療機関や企業、スポーツ関係団体などと連携しながら、引き続き環境整備に取り組む必要があります。

今後は、ひらかたポイントについて、市民の健康づくりを推進するための幅広い仕組みづくりに取り組みます。また、自ら命を断とうとする危機にある人やその家族などからの相談について、相談機会の充実等自殺の危機から早期に脱することができるよう支援を行います。

【施策評価員の評価】

○早期発見早期治療のための市民の啓発教育が重要となっています。個人に働きかけることができるような組織化や機会を作っていくこと、そのために運動関係団体組織やスポーツイベントなどとの連携も深めていく必要があります。単発の健康診断受診率向上では限界があるものと思われます。

○主観的指標を見ていると、満足度が下がっていますが、重要度が上がっていることから、市民にとっては重要な施策ととらえていることがわかります。そのため、医療機関との連携をはじめ、市民の予防意識を高めるための仕組みや仕かけづくり、発信方法を再検討することが求められます。特に世代によっても、本施策のとらえ方や現状も異なるかもしれませんので、市民一律による発信方法について考えることに加え、世代を絞り、その世代への発信方法について検討するのもよいのではないかなと思います。

○各種検診の受診率が、目標値に対し低水準で推移しており、受診率向上に向けた取り組みを根本から見直す必要がある。また、健康への関心の高まりを踏まえ、健康医療都市として、市内医療機関と連携した取り組みが一層求められる。

○社会心理学を援用した、受診率向上のキャンペーンや、移動が不自由な方の移動手段の確保を検討してはどうか。

○ホームドクターと専門病院/大病院とのネットワークを強化した予防医療の推進を検討してはどうか。

○校区コミュニティに、スポーツ推進員が積極的に働きかけ、スポーツの魅力を喧伝し、開催することが望ましい。

総括評価シート

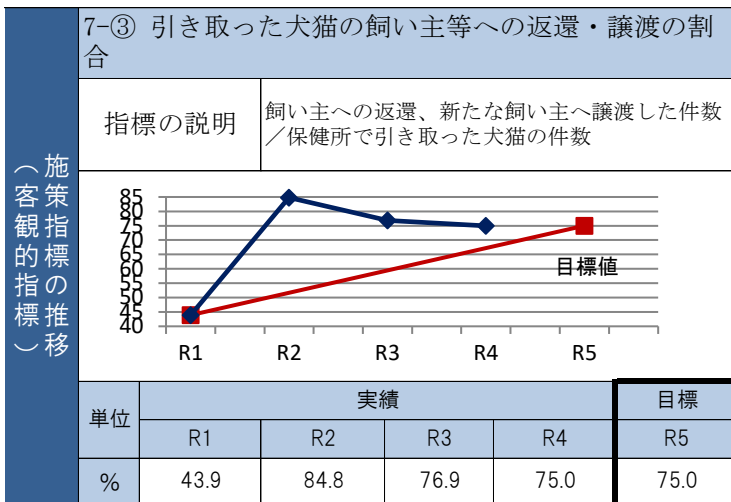
基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	7 公衆衛生や健康危機管理が充実したまち
4つの重点的に進める施策との関係	3 誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる
取り組みの方向	<p>7-① 感染症の予防や拡大防止対策などの強化により、健康に関する危機管理体制の充実を図ります。</p> <p>7-② 安全で快適に生活できるよう、食品関係施設や生活衛生関係施設における衛生水準を高める取り組みを進めます。</p> <p>7-③ 人と動物の共生を推進するため、動物の愛護・適正飼養の推進を図ります。また、殺処分される犬猫をゼロにすることをめざして、引き取り数の削減や譲渡の促進を図ります。</p>

関連する実行計画

7-1	感染症対策の推進
7-2	動物愛護の啓発推進

（主観的指標の推移）	【満足度】					【重要度】				
	【再掲】	心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合				公衆衛生や健康危機管理を充実するための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
	%	R1		R5	R5	R1		R5	-	
	56.1	→	51.5	61.1	61.0	→	80.2	-		

（客観的指標の推移）	7-① 1歳までにBCG接種を終了している者の割合					7-② 収去検査における違反・不適件数					
	指標の説明	結核を予防するBCGワクチンを1歳までに接種した児の数/0歳児の人口				指標の説明	食品衛生及び生活衛生に関する立入・収去検査において違反・不適であった件数				
	単位	実績				目標	単位	実績			
%	R1	R2	R3	R4	R5	件	R1	R2	R3	R4	R5
	98.5	95.0	100.8	94.7	98	14	12	4	7	0	



施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「心身ともに健康に暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して4.6ポイント下落している一方、重要度については令和元年度と比較して、19.2ポイント上昇しています。
- ・施策指標「1歳までにBCG接種を終了している者の割合」については、令和3年度に目標値を達成したものの、一転令和4年度に目標値を下回っており、引き続き取り組みを進める必要があります。
- ・施策指標「収去検査における違反・不適合件数」については、令和元年度の値と比較して減少し、目標値に向かって推移しているものの、達成には至っておらず、引き続き取り組みを進める必要があります。
- ・施策指標「引き取った犬猫の飼い主等への返還・譲渡の割合」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

3つの客観的指標のうち、1つについてはすでに目標値を達成しました。残り2つについては、目標値には達していませんが、施策として一定の成果はあったと考えられ、今後も令和5年度における目標値の達成に向け取り組みを進める必要があります。

主観的指標の推移を見ると、重要度が大きく上昇しており、コロナ禍を経て感染症対策に対する市民の意識の高まりが窺えます。

今後は、新型コロナ対応の経験を踏まえ、地域保健体制や医療機関との連携を強化するとともに、健康危機管理体制の強化を目的に健康危機の段階に応じた人員体制や業務重点化、人材育成のための研修・訓練等について記載した「健康危機対処計画（仮称）」を策定します。

【施策評価員の評価】

○保健衛生環境への関心は高く、市民の不安も強くなっていることから、感染症予防や食品衛生対策など危機時のリスクコミュニケーションの、平時の準備と広報啓発が、肝要となる。人と動物との共生については、飼養者の組織化や地域団体の育成など、面的な広がりのある対策を考える段階ではないか。

○感染症への正しい知識を周知し、街の活性化のためにも、集団圧力的なマスクの着用を漸減するよう誘導する事が望ましい。

総括評価シート

基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	8 安心して適切な医療が受けられるまち
4つの重点的に進める 施策との関係	3 誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる
取り組みの方向	<p>8-① 「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」において、関係団体が連携しながら、地域医療の充実を図ります。</p> <p>8-② 地域のかかりつけ医から高度な医療を提供できる公的病院までが連携し、住み慣れた地域に必要な医療が受けられる地域医療の充実を図るなど、市民の医療ニーズに適切に対応できる医療体制を構築します。</p> <p>8-③ 初期救急医療から高度救急医療を含む各医療機関の連携強化により救急医療体制を確保するとともに、応急救護体制の充実を図ります。</p> <p>8-④ 市立ひらかた病院は、地域の中核となる公立病院として、地域の医療機関と連携しながら、安全な医療の提供を進めます。</p> <p>8-⑤ 外国人や聴覚障害者など誰もが安心して医療を受けることができる環境整備を進めます。</p> <p>8-⑥ 高齢者などが住み慣れた地域で、医療・介護が一体的に受けられる体制づくりを進めます。</p>

関連する実行計画

8-1	医療体制の充実
-----	---------

(主観的指標の推移)	【満足度】 安心して適切な医療が受けられる環境が整っていると 感じている市民の割合				【重要度】 安心して適切な医療が受けるための施策が重要だと思う 市民の割合					
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	49.6	→	59.8	67.5	%	74.9	→	86.8	-

(客観的指標の推移)	8-① 【再掲】 コンソーシアム連携事業への参加人数					8-②④ 地域医療機関から市立病院への紹介件数					
	指標の説明		健康・医療に関わる市内団体により構成される「健康医療都市ひらかたコンソーシアム」の連携事業への参加人数(会議を除く研修会講習会への参加人数)			指標の説明		地域医療機関から市立病院への患者の紹介件数			
	単位	実績				目標	単位	実績			
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
人	13,371	563	1,012	5,142	12,000	件	13,029	10,942	13,242	13,860	13,144

(客観的指標の推移)	8-③ 北河内夜間救急センターから二次医療機関に後送した患者の入院率					8-⑤ 医療通訳士の利用件数					
	指標の説明		入院に至った件数/夜間21~6時における北河内夜間救急センターから二次医療機関に後送された患者数			指標の説明		外国人住民等が市内対象医療機関を受診する際の医療通訳士の利用件数			
	単位	実績				目標	単位	実績			
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
人	78.0	85.8	75.5	76.9	80.0	件	554	41	153	333	500

(客観的指標の推移)	8-⑤ 医療機関への手話通訳の派遣件数				
	指標の説明		聴覚障害者が医療機関を利用する際の手話通訳の派遣件数		
	単位	実績			
	R1	R2	R3	R4	R5
人	1,010	937	1,035	1,127	1,500

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「安心して適切な医療が受けられる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して10.2ポイント上昇しましたが、目標値には至りませんでした。一方、重要度については令和元年度と比較して11.9ポイント上昇しています。

・施策指標「コンソーシアム連携事業への参加人数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベント中止等の影響により、実績は低水準となっており、目標値の達成は不透明となっています。

・施策指標「地域医療機関から市立病院への紹介件数」については、既に目標値を達成しています。

・施策指標「北河内夜間救急センターから二次医療機関に後送した患者の入院率」については、目標値を下回っているものの、令和5年度における目標値達成に向け順調に推移しています。

・施策指標「医療通訳士の利用件数」及び「医療機関への手話通訳の派遣件数」については、新型コロナウイルス感染拡大以降、病院の外来患者数が大幅に減少し、医療通訳の利用件数も減少しましたが、同感染症が5類へ移行したことで、病院の患者数が回復傾向にあり、医療通訳の利用件数も目標値に向け増加傾向にあります。

課題や今後の対応

5つの客観的指標のうち、1つについては既に目標値を達成し、3つについては、実績が増加傾向にあり、令和5年度の目標値達成が見込まれ、施策の推進により一定の効果があったと考えます。

主観的指標の推移によると、目標値には至らなかったものの満足度は大きく増加しており、コロナ禍における取り組みについて一定の効果があったものと考えます。また、重要度についても高水準となっていることから、今後、医療施策に対する市民ニーズの把握に努め、適切に対応できる医療体制の構築に取り組みます。

【施策評価員の評価】

○今後は在宅の地域医療が重要となることから、身近な医療の充実に向けて、市立病院と地域医療機関との連携も逆紹介のような形で活発になっていく必要がある。在宅の方の福祉介護医療、保健などの連携型の取り組みが求められる。

○今後、外国籍住民の方が増えることも想定されることから、医療通訳士の周知や確保、医療通訳士のフォローアップ体制など、外国人の方も安心して利用できる医療体制の整備がより一層、求められる。「安心して医療が受けられるまち」ということが社会の中で認識されるようになると、住みたいまちのランキングも上昇し、人口流入や人口増加にもやがては繋がってくるのではないかと思う。

○医療コンソーシアムの実質的な進展と、多様性への対応を更に充実する事が求められる。

総括評価シート

基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	9 高齢者が地域でいきいきと暮らせるまち
4つの重点的に進める施策との関係	3 誰もがいつまでも健康に暮らせるまちをつくる
取り組みの方向	<p>9-① 保健・医療・介護・福祉等の連携強化を図り、高齢者が継続して在宅生活ができる環境の整備をめざします。</p> <p>9-② 認知症高齢者が尊厳を持ち、地域で安心して暮らせる環境づくりを進めます。</p> <p>9-③ 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、生活支援サービスの充実を図ります。</p> <p>9-④ 介護が必要となった時に質の高い介護サービスが受けられるよう、介護保険施設等の基盤整備を進めます。</p> <p>9-⑤ 高齢者がいつまでも健康に生活できるよう、介護予防を推進します。</p> <p>9-⑥ 高齢者が生きがいを持って生活できるよう、高齢者の技能・経験を生かせる活躍の場や若者との世代間交流の場の確保など社会参加を促進します。</p> <p>9-⑦ 大阪府の「スマートエイジング・シティ」構想との連携など、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを進めます。</p>

関連する実行計画

9-1	認知症予防の推進と相談体制の充実
9-2	高齢者の生きがいづくりと外出支援
9-3	介護事業の充実

(主観的指標の推移)	【満足度】 高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合					【重要度】 高齢者が地域でいきいきと暮らすための施策が重要だと思う市民の割合					
	単位	実績			目標	単位	実績			-	
	%	R1		R5	R5	%	R1		R5	-	
		30.0	→	34.2	35.0			63.3	→	76.4	-

(客観的指標の推移)	9-② 認知症サポーター養成講座の参加者数 (累計)					9-③ 介護保険給付に占める在宅サービスの割合							
	指標の説明	認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法を学ぶ認知症サポーター養成講座の参加者数 (累計)				指標の説明	居宅サービス及び地域密着型サービス給付費合計 / 介護保険給付費						
	単位	実績				目標	単位	実績				目標	
	人	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5	
		24,213	24,615	25,491	26,441	32,100			68.9	69.3	69.8	71.1	70.5

(客観的指標の推移)	9-④ 介護保険施設等の施設数					9-⑤ 高齢者居場所など集いの場の参加率							
	指標の説明	特別養護老人ホームなど介護保険施設等の施設数				指標の説明	高齢者居場所など集いの場の参加人数 / 65歳以上の人口						
	単位	実績				目標	単位	実績				目標	
	施設	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5	
		94	95	97	96	101			8.1	5.6	5.8	5.7	6.0

(客観的指標の推移)	9-⑥ ひらかた生き生きマイレージ (介護予防ポイント事業) による活動件数					
	指標の説明	ひらかた生き生きマイレージ事業において65歳以上の高齢者が介護保険施設等でサポーター活動を行う件数				
	単位	実績				目標
	件	R1	R2	R3	R4	R5
		4,205	351	321	574	7,500

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「高齢者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して4.2ポイント上昇していますが、目標値の達成には至りませんでした。また、重要度については、令和元年度と比較して13.1ポイント上昇しています。

・施策指標「認知症サポーター養成講座の参加者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う開催回数の縮小や人数制限を実施してきたため、令和5年度の目標値の達成は不透明となっています。

・施策指標「介護保険給付に占める在宅サービスの割合」については、既に目標値を達成しています。

・施策指標「介護保険施設等の施設数」については、令和元年度から概ね増加傾向にあるものの、整備事業候補者が未選定となっている施設が複数あり、令和5年度の目標値の達成は不透明となっています。

施策指標「高齢者居場所など集いの場の参加率」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、活動自粛や利用定員を減らしている場もあることから、コロナ前の参加率を下回る状況が継続しており、令和5年度の目標値の達成に向け引き続き取り組みを進める必要があります。

・施策指標「ひらかた生き生きマイレージ(介護予防ポイント事業)による活動件数」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、受入施設の立ち入り自粛だけでなく、サポーター自身の活動自粛により、コロナ前の1/10まで活動件数が減少し、令和5年度の目標値の達成は困難となっています。

課題や今後の対応

5つの客観的指標のうち、1つは既に目標値を達成しているものの、その他については、令和5年度の目標値達成が不透明なものや、達成困難なものが多くあります。

一方、主観的指標の推移を見ると、満足度は、令和5年度の目標値には至らなかったものの、令和元年度の値と比較して上昇しており、重要度も上昇しています。

今後は、認知症やその疑いがある方、また、その家族などに対し、相談・支援、予防や見守り等必要な支援が早期に届くよう、地域包括支援センター等の相談支援機関や、認知症サポート医との連携体制の充実に取り組みます。また、民間活力をいかした介護予防事業により結成された自主グループの活動支援など、高齢者の介護予防と生きがい創出に向けた取り組みを推進します。

【施策評価員の評価】

○施設サービスを含めて介護サービスを要支援者本位に構築するためのアプローチが、多職種連携によって成立するはずであり、その実現度合いが質的にも量的にも問われている。

○新型コロナウイルス感染症により、住民間で繋がっていた関係が断ち切れてしまい、切れてしまった糸をこれから紡いでいくことが求められる。またボランティア側などもこの2~3年間の中で生活様式や自らの置かれている状況も変わり、活動が困難になっているとも聞いている。そのため、場づくりや人づくり、参加率については、ゆっくりでもよいのでできることから始めていくというスタンスでもよいと思う。なお、市内にはいくつかの大学があるので、大学生へのボランティア活動案内なども積極的に展開してみてもどうか。地域貢献意識の高い学生も一定数いると思う。

○外出の機会を増やすためには、環境行動論的な「誘うデザイン」を展開することが求められる。

総括評価シート

基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	10 障害者が自立し、社会参加ができるまち
4つの重点的に進める 施策との関係	
取り組みの方向	10- 障害者が自立して生活できるよう、社会参加の促進に向けたさまざまな福祉サービスの充実を図ります。 ① 10- 障害者が地域で安心して暮らせる環境をつくるため、障害への理解の促進や地域との交流の場の提供を図ります。 ②

関連する実行計画

10-1	障害福祉サービスの充実
10-2	障害者の就労と社会参加の促進

（主観的指標の推移）	【満足度】 障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合					【重要度】 障害者が自立し、社会参加ができるための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	23.9	→	20.8	26.9	%	57.4	→	74.3	-

（客観的指標の推移）	10-① 障害者のグループホーム利用者数					10-② 地域活動支援センター事業の利用者数						
	指標の説明	障害者が地域で共同生活するグループホームの実利用者数（月あたり）				指標の説明	障害者の日中活動や地域との交流の場である地域活動支援センターの利用者数					
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5	
	人	389	446	438	510	424	人	32,080	32,883	35,224	36,374	43,653

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「障害者が地域でいきいきと暮らせる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して3.1ポイント下落している一方、重要度については、令和元年度と比較して16.9ポイント上昇しています。
- ・施策指標「障害者のグループホーム利用者数」については、すでに目標値を達成しています。
- ・施策指標「地域活動支援センター事業の利用者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用時間が短縮されており、令和5年度の目標値の達成は不透明であるため、引き続き取り組みを進める必要があります。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、2つのうち1つは既に目標値を達成している一方で、1つは目標値の達成が不透明となっています。

また、主観的指標の推移によると、令和元年度の値と比較して満足度が下落し、重要度が大きく上昇していることから、市民のニーズを的確に把握することが求められています。

今後は、グループホームの重度障害者の受け入れ先の拡充に向け、グループホーム世話人養成を通じた福祉人材の確保に取り組めます。また、大阪府の医療的ケア児支援センター等と連携を図り、医療的ケア児（者）の支援拡充に向け検討を進めます。

【施策評価員の評価】

○様々な障害を持つ方の社会参加を促進することが求められているが、実現に向けての取り組みが偏っている可能性がある。身体、精神、病気、年齢などの違いにも関わらず、社会参加できる仕組みを用意する必要がある。そのためには障害者からの視点による社会参加促進策を構築する必要がある。

○主観的指標を見ていると、満足度が低く、重要度が高いことから、市民にとっては重要な施策であるにとらえていることがわかる。障害者の方が社会参加できるような機会や住民との接点のより一層の確保や、親亡き後でも自立した生活を送ることができるような就労支援や賃金の見直し、生活支援体制など、一つひとつ検討していくことが求められている。

○障害に対する社会的理解の深耕と、各制度の意図を対象者に周知する取り組みが求められる。

総括評価シート

基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	11 すべての人がお互いの人権を尊重しあうまち
4つの重点的に進める 施策との関係	
取り組みの方向	<p>11- 全ての市民の人権が大切にされる社会の実現に向け、人権問題を正しく理解し、一人 ① ひとりの個性や価値観、多様な文化を認め合えるよう人権教育・啓発の推進を図ります。</p> <p>11- 配偶者等からの暴力（DV）や、高齢者、障害者等へのさまざまな人権侵害に対し、関 ② 係機関が連携しながら支援の充実を図ります。</p>

関連する実行計画

11-1	人権意識の啓発と人権教育の推進
11-2	性的マイノリティへの支援
11-3	権利擁護の推進

（主観的指標の推移）	【満足度】 一人ひとりが人権を尊重し合っていると感じている市民の割合					【重要度】 すべての人がお互いの人権を尊重しあうための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
%	20.2	→	25.9	23.2	%	50.4	→	70.4	-	

11-① 人権啓発事業の参加者数					11-② DV被害に関する相談件数				
指標の説明		人権に関する講座など人権啓発事業の参加者数			指標の説明		配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」におけるDV被害に関する相談件数		

（客観的指標の推移）	単位	実績				目標	単位	実績				めざすべき方向
		R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
	人	708	291	639	547	1,000	件	1,177	1,366	1,673	1,748	↗

11-② DV被害に関する相談窓口を知っている市民の割合					11-② 高齢者虐待に関する相談件数				
指標の説明		(市民意識調査により把握)			指標の説明		高齢者虐待に関する市への相談件数		

単位	実績				目標	単位	実績				めざすべき方向
	R1		R5	R5			R1	R2	R3	R4	R5
%	25.1	→	38.5	50	件	166	114	135	125	↘	

11-② 障害者虐待に関する相談件数					
指標の説明		「障害者虐待防止センター」における障害者虐待に関する相談件数			
単位	実績				めざすべき方向
	R1	R2	R3	R4	R5
件	72	49	51	67	↘

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「一人ひとりが人権を尊重し合っていると感じている市民の割合」については、令和元年度と比較して5.7ポイント上昇し、目標値を達成しました。一方、重要度については、令和元年度と比較して20ポイント上昇しています。

・施策指標「人権啓発事業の参加者数」については、令和元年度の値を下回る状況が継続しており、市民が親しみやすい形態で実施するなど、関心を引き起こせるようなPRや啓発の工夫が求められています。

・施策指標「DV被害に関する相談件数」は、めざすべき方向に沿った推移をしていますが、「DV被害に関する相談窓口を知っている市民の割合」は、目標値の達成には至りませんでした。

・施策指標「高齢者虐待に関する相談件数」については、令和2年度に一旦大きく減少したものの、その後はおおむね横ばいで推移しています。

・施策指標「障害者虐待に関する相談件数」についても、令和2年度に一旦大きく減少したものの、めざすべき方向に沿った推移をしています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、おおむねめざすべき方向に沿った推移をしており、施策全体としては一定の成果はあったと考えられます。

また、主観的指標の推移を見ても、重要度が大きく上昇する一方で、満足度が目標値を達成しており、人権啓発の取り組みが奏功したものと考えられます。

今後は、人権啓発を推進するとともに、実効性を高めるため、社会問題化しているヘイトスピーチやインターネットによる誹謗中傷などあらゆる人権侵害を許さない市の姿勢を発信していきます。また、増加傾向にあるDV被害や虐待に関する相談に対しては、関係機関と連携し、早期に必要な支援を行います。

【施策評価員の評価】

○主観的指標満足度については目標値を充足しているが、むしろ20%台であることを問題視する必要があるのではないか。人権問題はあらゆる側面で発生しており、次々に新たな側面で問題が発生している現状にあり、むしろ市民的にこの問題を受け止めていく基盤づくりが必要である。次のステップとして、市民運動や活動に結び付けていく必要があるのではないか。

○主観的評価の満足度は目標値には到達していますが、4人に1人しか満足しておらず、人権意識を醸成するために、今後、どうしていけばよいか、様々な世代との対話を行う必要がある。

○市民の安心につながる実効性のある支援が求められている。

○多文化共生教育は大いに進めるべき。いじめ問題も人権教育の枠内で捉えるべきである。教育機関におけるLGBTQの啓発活動に関しては、慎重に検討する必要がある。表面的で安易な、法への対応では分断を生み出すので、大らかな対応が求められる。

総括評価シート

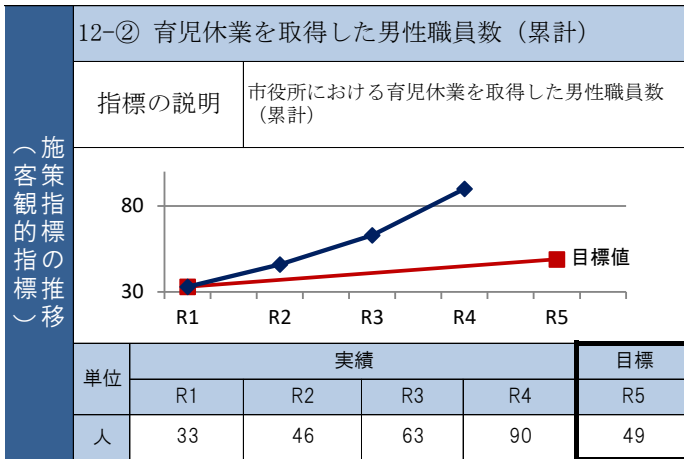
基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	12 男女がともに参画し、個性を發揮できるまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	<p>12- ① 固定的な性別役割分担意識の解消に向けて、男女共同参画意識の向上に取り組むとともに、女性の職業生活などにおける活躍の推進を図るなど、男女がともに活躍できる場の拡大を図ります。</p> <p>12- ② 男女がともに仕事と生活を両立することができるよう、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進を図ります。</p>

関連する実行計画

12-1	男女共同参画の推進
------	-----------

（主観的指標の推移）	【満足度】 男女共同参画社会が実現していると感じている市民の割合	【重要度】 男女がともに参画し、個性を發揮できるための施策が重要だと思う市民の割合								
	単位	実績			目標	単位	実績			-
	%	R1		R5	R5	%	R1		R5	-
		16.9	→	18.1	19.9		43.5	→	66.4	-

（客観的指標の推移）	12-① 審議会等への女性委員登用率					12-① 管理職に占める女性の割合						
	指標の説明	女性委員比率が35%を達成している審議会等/全審議会等				指標の説明	市役所における女性管理職/全管理職					
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
%	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5	
		55.2	52.3	55.3	68.1	100		26.0	26.2	26.1	28.5	30.0



施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「男女共同参画社会が実現していると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.2ポイント上昇していますが、目標値の達成には至りませんでした。また、重要度についても22.9ポイント上昇しています。
- ・施策指標「審議会等への女性委員登用率」については、緩やかに上昇しているものの、目標値の達成は不透明な状況です。
- ・施策指標「管理職に占める女性の割合」については、順調に推移しており、令和5年度における目標値達成の見込みとなっています。
- ・施策指標「育児休業を取得した男性職員数」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

3つの客観的指標のうち、1つは既に目標値を達成し、1つは目標値達成見込みとなっており、施策として一定の効果はあったと考えられます。

また、主観的指標の推移を見ると、重要度が大きく上昇しているものの、満足度の上昇は小幅であり、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みのさらなる充実が求められています。

今後も、男女共同参画社会の実現に向けたロールモデルとして、男性職員の育休取得率のさらなる向上等に取組みるとともに、ターゲット層に合わせた効果的な啓発に取り組めます。

【施策評価員の評価】

○市行政の男女共同参画は徐々に進みつつあるが、その質的な側面、例えば管理職層のランク別に見た時の比率問題などに踏み込む必要がある。これは審議会などでも同様である。つぎの目標は50%とせざるを得ないだろう。社会的には、客観目標が設定されていないが、主観指標に表れるように、市民生活全体で男女平等が不十分であることは明らかであり、市民への働きかけを積極的にしていくことが次の目標となるのではないか。

○昨今、いろいろな観点から性やジェンダーについて見聞きすることが増えたが、このようなときだからこそ、男性も女性も含めたすべての人が社会に参画する意味の一つとして、育休を取得した男性職員の方々の声を集めたパンフレット作成やSNS投稿など、育休取得で良かったことや意外だったこと、わかったことなど率直な声を集めて発信すべきである。また、何を発信すればよいかを検討することを通じ、SNSの取り扱いやターゲット層について考える機会にもなるかと思う。

○啓発だけではなく、何が障壁かの具体的な取り組みとブレークスルーが求められる。

総括評価シート

基本目標	健やかに、生きがいを持って暮らせるまち
施策目標	13 平和の大切さを後世に伝えるまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	13-① 平和な社会の実現に向けて、平和意識の向上を図り、戦争の悲惨さを後世に伝える取り組みを進めます。

関連する実行計画

13-1	平和意識の啓発
------	---------

（主観的指標の推移）	【満足度】 平和の大切さが継承されていると感じている市民の割合	【重要度】 平和の大切さを後世に伝えるための施策が重要だと思う市民の割合																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>42.9</td> <td>→</td> <td>41.3</td> <td>45.9</td> </tr> </tbody> </table>	単位	実績			目標	R1		R5	R5	%	42.9	→	41.3	45.9	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>55.6</td> <td>→</td> <td>71.6</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	単位	実績			-	R1		R5	-	%	55.6	→	71.6	-
	単位		実績			目標																								
R1			R5	R5																										
%	42.9	→	41.3	45.9																										
単位	実績			-																										
	R1		R5	-																										
%	55.6	→	71.6	-																										

（客観的指標の推移）	13-① 平和に関するイベントの参加者数																				
	指標の説明	3月1日の「枚方市平和の日」などに開催する平和に関するイベントの参加者数																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>3,364</td> <td>1,812</td> <td>4,080</td> <td>3,144</td> <td>6,700</td> </tr> </tbody> </table>					単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	人	3,364	1,812	4,080	3,144
単位	実績				目標																
	R1	R2	R3	R4	R5																
人	3,364	1,812	4,080	3,144	6,700																

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「平和の大切さが継承されていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.6ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方で、重要度については令和元年度と比較して16ポイント上昇しています。

・施策指標「平和に関するイベントの参加者数」については、イベントへの若年層の参加が少ないなど、令和5年度の目標値の達成は難しい状況となっている。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、目標値の達成が困難であり、参加者数の増加に向けて、SNSの活用や民間とのタイアップなどイベント周知の工夫を図る必要がある。

また、主観的指標の推移を見ると、平和に対する意識の高まりが窺える一方で、平和意識の継承に対する満足度が低下している。

今後は、戦争体験者が減少する中、平和の大切さを次世代に継承するため、戦争体験者の語り部動画等の効果的な活用など、若い世代が参加し、自分ごととして考えてもらえる機会を提供できるよう取り組みを進めます。

【施策評価員の評価】

○平和問題への関心や重要度の認識が高まっており、その一方ではそれが十分に市民に広がっていないという危惧が持たれている。平和学習や啓発の在り方を改めて考える必要があるし、とりわけ子供たちの世代からの学習、平和を自分事として考える機会の提供など、学び方や学習機会の提供の仕方を工夫する必要がある。従来の事業にとらわれることなく、施策や事業の成果を見極めて抜本的な見直しを考える必要があろう。

○戦争体験者の語り部動画作成やその活用もとても良い。枚方市内の戦争による痕跡なども大切に保管し、小中学生による見学や、平和に向けた読書感想文コンクールや平和をテーマにした絵画コンクールなど、さまざまなイベントを毎年でなくても、2年に1回や3年に1回開催するなどの企画を催すのもよいのではないか。

○平和を表面的に単に称揚するのではなく、真の平和とは何かを深く考える教育やシンポジウム等の企画が求められる。

総括評価シート

基本目標	一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
施策目標	14 安心して妊娠・出産できる環境が整うまち
4つの重点的に進める施策との関係	2 安心して子どもを産み育て、健やかな成長と学びを支えるまちをつくる
取り組みの方向	14- 妊娠・出産を望むすべての人が、安心して子どもを産み育てることができるよう、 ① 母と子の心身の健康づくりを進めます。

関連する実行計画

14-1	母子の健康づくりの推進
------	-------------

（主観的指標の推移）	【満足度】 安心して妊娠・出産できる環境が整っていると感じている市民の割合	【重要度】 安心して妊娠・出産できる環境を整えるための施策が重要だと思う市民の割合																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>38.5</td> <td>→</td> <td>34.7</td> <td>43.5</td> </tr> </tbody> </table>	単位	実績			目標	R1		R5	R5	%	38.5	→	34.7	43.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>66.1</td> <td>→</td> <td>79.7</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	単位	実績			-	R1		R5	-	%	66.1	→	79.7	-
	単位		実績			目標																								
R1			R5	R5																										
%	38.5	→	34.7	43.5																										
単位	実績			-																										
	R1		R5	-																										
%	66.1	→	79.7	-																										

（客観的指標の推移）	14-① 妊娠11週以下での妊娠の届出率																
	指標の説明	妊娠11週以下での妊娠の届出数／全届出数															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>%</td> <td>96.9</td> <td>97.0</td> <td>96.6</td> <td>96.6</td> <td>96.0</td> </tr> </tbody> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	96.9	97.0	96.6	96.6
単位	実績				目標												
	R1	R2	R3	R4	R5												
%	96.9	97.0	96.6	96.6	96.0												

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「安心して妊娠・出産できる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して3.8ポイント下落し、目標値の達成には至りませんでした。また、重要度については、令和元年度の値と比較して13.6ポイント上昇しています。

・施策指標「妊娠11週以下での妊娠の届出率」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、目標値を達成しており、施策の成果はあったと考えられます。

一方で、主観的指標の推移を見ると、重要度が上昇する一方で、満足度が低下しています。昨今の物価高騰等の社会経済情勢を踏まえる必要はあるものの、出産・子育てにおける不安解消に向けてこれまで以上に取り組みを充実する必要があります。

今後は、サポートを必要とする妊産婦や子ども、子育て世帯へ確実に支援を届けるため、児童福祉と母子保健の一体的支援を行う「こども家庭センター」設置に向け、組織体制や業務内容等の検討を行います。

【施策評価員の評価】

○安心して妊娠出産できる状況にはないとの評価が主観的には提示されている。その背景を探る必要があり、一人一人の事情に合わせた対応がどこまでできるかが、おそらくカギになると思われる。通り一遍の相談や給付では不満は大きくなるばかりと思われる。

○主観的指標を見ていると、満足度が低く、重要度が高いことから、市民にとっては重要な施策であることがわかる。「こども家庭センター」設置も検討されているのであれば、アンケートでも聞き取りでもよいと思うが、子育て世代のニーズ調査など、ターゲットを絞った調査を行い、その結果も今後の施策に反映していくのも大切だと思う。

○「安心して妊娠・出産できる環境が整っていると感じている市民の割合」は目標値に届いていない。枚方が子育て世代から選ばれるまちであるためにもこの課題を分析した対策の強化が必要である。

○安心して出産できる環境の整備は、少子化対策の喫緊の問題であり、多面的な分析と対応が求められる。切れ目のない支援という視点は大いに評価できる。

総括評価シート

基本目標	一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
施策目標	15 子どもたちが健やかに育つことができるまち
4つの重点的に進める施策との関係	2 安心して子どもを産み育て、健やかな成長と学びを支えるまちをつくる
取り組みの方向	<p>15-① 子どもの心身の健やかな育ちを支援するため、疾病等の予防・早期発見・早期対応の取り組みを進めます。</p> <p>15-② 保護者のさまざまなニーズに応じて、子どもが安心して教育・保育を受けられる環境づくりを進めます。</p> <p>15-③ 障害児等が健やかに育つことができる環境づくりを進めます。</p> <p>15-④ 子育てに対する相談体制の充実を図るとともに、子育て世帯が交流できる場を確保するなど、地域の子育て支援を進めます。</p> <p>15-⑤ 子どもの人権擁護の推進を図るため、児童虐待等の問題に対し、発生予防・早期発見・早期対応の取り組みを進めます。</p> <p>15-⑥ ひきこもりや若年無業者（ニート）の社会的自立に向けた支援を行うとともに、子どもの貧困対策を推進するなど、子どもや若者が社会生活を円滑に営める環境づくりを進めます。</p> <p>15-⑦ 子どもの健やかな成長を支えるため、ひとり親家庭の自立に向けた取り組みを進めます。</p>

関連する実行計画

15-1	子育て支援の充実
15-2	保育環境等の充実
15-3	ひきこもりや若年無業者、ひとり親家庭の自立に向けた支援
15-4	健やかな育ちを支える仕組みづくり

（主観的指標の推移）	【満足度】 安心して子育てできる環境が整っていると感じている市民の割合				【重要度】 子どもたちが健やかに育つための施策が重要と思う市民の割合					
	単位	実績			目標	単位	実績			-
	%	R1		R5	R5	%	R1		R5	-
	44.5	→	39.3	49.5		73.1	→	84.4	-	

（客観的指標の推移）	15-① 乳幼児健康診査の受診率					15-② 保育所等利用待機児童数						
	指標の説明		1歳6か月児健康診査受診児の人数／全1歳6か月児の人数			指標の説明		国の定義による保育所等の利用待機児童数				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
	%	R1	R2	R3	R4	R5	人	R1	R2	R3	R4	R5
		97.2	94.9	93.6	96.7	97.0		36	0	0	9	0
	15-② 留守家庭児童会室待機児童数					15-③ 放課後等デイサービス利用者数						
	指標の説明		留守家庭児童会入室の待機児童数			指標の説明		学校通学中の障害児を対象に放課後や長期休暇中に生活力向上の訓練を行う放課後等デイサービスの実利用者数（一月あたり）				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
人	R1	R2	R3	R4	R5	人	R1	R2	R3	R4	R5	
	0	0	94	0	0		840	908	1,020	1,026	954	
15-③ 児童発達支援利用者数					15-④ 地域子育て支援拠点事業利用者数							
指標の説明		就学前の障害児を対象に日常生活の基本的な動作や集団生活への適応の訓練を行う児童発達支援の実利用者数（一月あたり）			指標の説明		子育て世帯が交流できる場を確保する地域の子育て支援拠点事業の利用者数					
単位	実績				目標	単位	実績				目標	
人	R1	R2	R3	R4	R5	人	R1	R2	R3	R4	R5	
	373	305	363	303	339		67,740	24,752	33,936	49,256	69,400	

15-⑦ 児童虐待に関する相談件数					15-⑤ 児童虐待に関する相談窓口を知っている市民の割合					
指標の説明		子ども総合相談センターにおける児童虐待に関する相談件数			指標の説明		(市民意識調査により把握)			
単位	実績				めざすべき方向	単位	実績			目標
	R1	R2	R3	R4	R5		R1		R5	R5
件	20,026	29,911	35,530	41,259	↗	%	39.6	→	47.2	50
15-⑥ ひきこもり等に関する相談件数					15-⑥ ひきこもり等に関する相談窓口を知っている市民の割合					
指標の説明		「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」におけるひきこもり・若者無業者（ニート）に関する相談件数			指標の説明		(市民意識調査により把握)			
単位	実績				めざすべき方向	単位	実績			目標
	R1	R2	R3	R4	R5		R1		R5	R5
件	2,663	2,418	2,446	2,858	↗	%	23.4	→	36.2	50
15-⑦ ひとり親家庭の自立支援に関する給付金制度利用者数（累計）										
指標の説明		ひとり親家庭を対象とした自立支援教育訓練給付金や高等職業訓練促進給付金の利用者数（累計）								
単位	実績				目標					
	R1	R2	R3	R4	R5					
人	48	43	78	110	120					

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「安心して子育てできる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度と比較して5.2ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については令和元年度と比較して、11.3ポイント上昇しています。
- ・施策指標「乳幼児健康診査の受診率」については、新型コロナウイルスの影響もあり、令和2年度から落ち込んだものの、令和4年度は大きく回復し、令和5年度の目標値の達成が見込まれます。
- ・施策指標「留守家庭児童会室待機児童数」については、既に目標値を達成していますが、「保育所等利用待機児童数」については、待機が発生していることから、令和5年度の目標値の達成に向けて引き続き取り組む必要があります。
- ・施策指標「放課後等デイサービス利用者」については、既に目標値を達成しています。
- ・施策指標「児童発達支援利用者数」については、令和3年度に目標値を達成したものの、令和4年度に目標値を下回っており、令和5年度の目標値の達成に向けて引き続き取り組む必要があります。
- ・施策指標「地域子育て支援拠点事業利用者数」については、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベント中止等の影響により、目標値を大きく下回りましたが、定員枠を拡大したことで増加傾向に転じました。令和5年度の目標値の達成に向けて引き続き取り組む必要があります。
- ・施策指標「児童虐待に関する相談件数」については増加傾向にあり、相談窓口の認知度を高めるという、現時点でのめざすべき方向に沿った推移をしています。また、「児童虐待に関する相談窓口を知っている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して7.6ポイント上昇しているものの、おおむね目標値付近まで上昇しています。
- ・施策指標「ひきこもり等に関する相談件数」についてはおおむね増加傾向にあり、相談窓口の認知度を高めるという、現時点でのめざすべき方向に沿った推移をしています。一方、「ひきこもり等に関する相談窓口を知っている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して12.8ポイント上昇しているものの、目標値の達成には至りませんでした。
- ・施策指標「ひとり親家庭の自立支援に関する給付金制度利用者数(累計)」については、令和5年度の目標値の達成見込みとなっています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、施策全体として見れば一定の成果はあったと考えられます。もっとも、主観的指標の推移を見ると、令和元年度と比較して重要度が上昇している一方、満足度が低下しています。昨今の物価高騰等の社会経済情勢を踏まえる必要はあるものの、子育てにおける不安解消に向けてこれまで以上に取り組みを充実する必要があります。

今後も、国の動向を注視し、将来の保育ニーズを見極めながら、引き続き待機児童の「通年のゼロ」を目指すとともに、様々な手法で入所枠の拡大を図ります。また、潜在保育士等の不安解消を図るなど、保育士人材の確保にも取り組みます。

また、児童虐待に関する相談件数が高水準で推移していることから、児童虐待の早期対応に向けた取り組みを充実し、子どもの安心・安全な環境づくりを推進します。

【施策評価員の評価】

○施策や事業によるサービスの提供目標は充足されているが、その一方で相談件数が増えるばかりであり、主観的な指標の満足度が下がっていることから、意識やニーズの高まりに的確に対応できなくなっていることがうかがえる。従来の対応策は整理しつつ、個別の問題事例や緊急的臨時的な家庭の事情にどのように対応できるのか、といった観点からの事業の進め方が望まれる。

○ひきこもり等の相談窓口を知っていると回答した人がどのようにして知ったかがわかるような質問を追加すれば、啓発の参考になると思う。本施策が充実している市であるという認識が社会に発信されるようになると、若い世代を中心に居住地として枚方市を検討いただくことにも繋がる。

○部署間連携を密にして、チームとして対応するような統合的な検証が求められる。

総括評価シート

基本目標	一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
施策目標	16 子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち
4つの重点的に進める施策との関係	2 安心して子どもを産み育て、健やかな成長と学びを支えるまちをつくる
取り組みの方向	<p>16-① 義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進するとともに、正確に理解・表現するための言語能力や思考力の育成、国際化に対応した英語によるコミュニケーション能力の育成などにより、子どもの確かな学力の定着を図ります。</p> <p>16-② 充実した教職員研修等を通じて、高い指導力と意欲を持つ教職員の育成を図ります。</p> <p>16-③ 学校・家庭・地域が連携しながら、子どもの社会性や思いやりの心など、豊かな人間性を育むとともに、健やかな身体を育成する取り組みを進めます。</p> <p>16-④ 学校・家庭・地域・関係機関が連携を図りながら、いじめの未然防止や早期発見を図るとともに、不登校の子どもへの支援に取り組みます。</p> <p>16-⑤ 子どもたちの安全確保を図るため、学校・家庭・地域などが連携し、子どもが安全に安心して学べる環境づくりを進めます。</p> <p>16-⑥ 安全で快適に学習できる環境を確保するため、老朽化した学校施設の更新や改修、学校規模等の適正化を図るなど、教育環境の向上を図ります。</p> <p>16-⑦ 障害のある子どもたちの状況に応じた支援教育の充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育の充実を図ります。</p>

関連する実行計画

16-1	自ら考え生きる力と学力を育む教育の推進
16-2	快適で安心できる学習環境づくり
16-3	学校園施設等の整備

(主観的指標の推移)	【満足度】 子どもたちへの教育環境が充実していると感じている市民の割合	【重要度】 子どもたちの生きる力を育む教育を充実するための施策が重要だと思う市民の割合																												
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>39.4</td> <td>→</td> <td>36.5</td> <td>44.4</td> </tr> </table>	単位	実績			目標	R1		R5	R5	%	39.4	→	36.5	44.4	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>-</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>70.8</td> <td>→</td> <td>83.0</td> <td>-</td> </tr> </table>	単位	実績			-	R1		R5	-	%	70.8	→	83.0	-
	単位		実績			目標																								
		R1		R5	R5																									
%	39.4	→	36.5	44.4																										
単位	実績			-																										
	R1		R5	-																										
%	70.8	→	83.0	-																										
【満足度】 子どもが安全な学習環境で学校生活を過ごしていると感じている市民の割合																														
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>46.8</td> <td>→</td> <td>41.9</td> <td>51.8</td> </tr> </table>	単位	実績			目標	R1		R5	R5	%	46.8	→	41.9	51.8																
単位		実績			目標																									
	R1		R5	R5																										
%	46.8	→	41.9	51.8																										

(客観的指標の推移)	16-① 「学校の授業時間以外での学習を全くしていない」と回答した児童・生徒の割合 (小学校)	16-① 「学校の授業時間以外での学習を全くしていない」と回答した児童・生徒の割合 (中学校)																																		
	<p>指標の説明 (全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)</p>	<p>指標の説明 (全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)</p>																																		
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>3.4</td> <td>-</td> <td>6.1</td> <td>7.0</td> <td>3.0</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	3.4	-	6.1	7.0	3.0	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>6.7</td> <td>-</td> <td>5.4</td> <td>6.5</td> <td>6.2</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	6.7	-	5.4	6.5	6.2
	単位		実績				目標																													
R1		R2	R3	R4	R5																															
%	3.4	-	6.1	7.0	3.0																															
単位	実績				目標																															
	R1	R2	R3	R4	R5																															
%	6.7	-	5.4	6.5	6.2																															

(客観的指標の推移)	16-① 学校の授業時間以外に読書を「10分以上」する児童・生徒の割合 (小学校)	16-① 学校の授業時間以外に読書を「10分以上」する児童・生徒の割合 (中学校)																																		
	<p>指標の説明 (全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)</p>	<p>指標の説明 (全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)</p>																																		
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>63.6</td> <td>-</td> <td>55.6</td> <td>54.9</td> <td>66.1</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	63.6	-	55.6	54.9	66.1	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>59.1</td> <td>-</td> <td>41.2</td> <td>43.6</td> <td>58.2</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	59.1	-	41.2	43.6	58.2
	単位		実績				目標																													
R1		R2	R3	R4	R5																															
%	63.6	-	55.6	54.9	66.1																															
単位	実績				目標																															
	R1	R2	R3	R4	R5																															
%	59.1	-	41.2	43.6	58.2																															

(客観的指標の推移)	16-① 国語の授業で目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている児童・生徒の割合 (小学校)	16-① 国語の授業で目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている児童・生徒の割合 (中学校)																																		
	<p>指標の説明 (全国学力学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)</p>	<p>指標の説明 (全国学力学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)</p>																																		
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>81.0</td> <td>-</td> <td>64.3</td> <td>-</td> <td>85.3</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	81.0	-	64.3	-	85.3	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>82.4</td> <td>-</td> <td>73.5</td> <td>-</td> <td>88.6</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	%	82.4	-	73.5	-	88.6
	単位		実績				目標																													
R1		R2	R3	R4	R5																															
%	81.0	-	64.3	-	85.3																															
単位	実績				目標																															
	R1	R2	R3	R4	R5																															
%	82.4	-	73.5	-	88.6																															

16-② 受講した研修内容を授業等に活用している教職員の割合					
指標の説明		研修を受講した教職員が各学校園において会議等で伝達したり授業等で実践した割合			
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	95.3	92.5	96.7	95.0	100.0

16-② 教員が、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童・生徒に伝えるなど積極的に評価している割合 (小学校)					
指標の説明		(全国学力学習状況調査「学校質問紙調査」により把握)			
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	100.0	-	100.0	97.7	100.0

16-② 教員が、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童・生徒に伝えるなど積極的に評価している割合 (中学校)					
指標の説明		(全国学力学習状況調査「学校質問紙調査」により把握)			
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	94.7	-	94.8	94.7	100.0

16-③ 自分にはよいところがあると回答した児童・生徒の割合 (小学校)					
指標の説明		(全国学力学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)			
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	80.3	-	74.1	82.6	81.9

16-③ 自分にはよいところがあると回答した児童・生徒の割合 (中学校)					
指標の説明		(全国学力学習状況調査「児童生徒質問紙調査」により把握)			
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	69.7	-	74.6	76.4	70.6

16-④ いじめの認知件数 (小学校)					
指標の説明		アンケートや児童生徒からの申告等によるいじめの認知件数			
単位	実績				めざすべき方向
	R1	R2	R3	R4	R5
件	432	658	1,310	2,724	↗

16-④ いじめの認知件数 (中学校)					
指標の説明		アンケートや児童生徒からの申告等によるいじめの認知件数			
単位	実績				めざすべき方向
	R1	R2	R3	R4	R5
件	143	271	305	491	↗

16-④ 不登校児童・生徒の割合 (小学校)					
指標の説明	不登校児童・生徒数/全児童・生徒数				
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	0.77	1.04	1.39	1.81	0.59

16-④ 不登校児童・生徒の割合 (中学校)					
指標の説明	不登校児童・生徒数/全児童・生徒数				
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	4.54	4.75	5.79	6.35	4.0

16-⑥ 学校施設整備計画に基づく整備率					
指標の説明	学校施設整備計画第1次実施計画(前期)に基づく整備済棟数/計画における整備予定棟数				
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	54.0	77.0	85.0	85.0	100.0

16-⑥ 中学校給食の喫食率					
指標の説明	市内19中学校の学校給食の喫食率				
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	33.5	33.8	35.1	35.2	50.0

16-⑦ 支援教育に関する専門的な知識・技能を持つ専門家の派遣回数					
指標の説明	支援教育に関する専門的な知識・技能を持つ専門家を学校園に派遣した回数				
単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
回	479	107	117	113	544

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「子どもたちへの教育環境が充実していると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して2.9ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。また、「子どもが安全な学習環境で学校生活を過ごしていると感じている市民の割合」についても、令和元年度の値と比較して4.9ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。重要度については、令和元年度と比較して12.2ポイント上昇しています。
- ・施策指標「学校の授業時間以外での学習を全くしていないと回答した児童・生徒の割合」や「学校の授業時間以外に読書を「10分以上」する児童・生徒の割合」については、小学校・中学校ともに目標値の達成には至っておらず、引き続き取り組みを進める必要があります。なお、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、全国学力・学習状況調査が実施されていません。
- ・施策指標「受講した研修内容を授業等に活用している教職員の割合」については、令和元年度の値からほぼ横ばいで、目標値の達成には至っておらず、引き続き取り組みを進める必要があります。一方で、「教員が、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童・生徒に伝えるなど積極的に評価している割合」については、概ね順調に推移しており、令和5年度の目標値の達成が見込まれます。
- ・施策指標「国語の授業で目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている児童・生徒の割合」については、令和3年度時点では令和元年度の値を下回っていました。令和4年度の全国学力・学習状況調査では当該質問項目が含まれていませんでしたが、引き続き正確に理解し、表現するための言語能力や思考力の育成に取り組む必要があります。
- ・施策指標「自分にはよいところがあると回答した児童・生徒の割合」については、小学校・中学校ともに既に目標値を達成しています。
- ・施策指標「いじめの認知件数」については、小学校・中学校ともに、令和元年度から上昇傾向にあり、認知機能を維持しつつ、個々のいじめの解消に向け取り組みを進める必要があります。また、「不登校児童・生徒の割合」については、令和元年度の値と比較して、小学校・中学校ともに目標値とは逆方向に推移し、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。不登校の兆しを捉え、早期対応と早期支援を行える体制を整えるなど取り組みを充実する必要があります。
- ・施策指標「学校施設整備計画に基づく整備率」については、整備予定の樟葉小学校について、新型コロナウイルスの影響で工事を見送ったことから、令和5年度の目標値の達成が困難な状況です。
- ・施策指標「中学校給食の喫食率」については、令和元年度の値と比較して1.7ポイントと微増しているものの、目標値の達成には至っておらず、引き続き取り組みを進める必要があります。
- ・施策指標「支援教育に関する専門的な知識・技能を持つ専門家の派遣回数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校園への派遣を見送るケースもあったため、令和元年度の値を大きく下回るなど、令和5年度の目標値の達成が困難な状況です。

客観的指標の推移によると、既に目標値を達成しているものや、令和5年度に達成が見込まれるものがあるなど、施策全体として見れば一定の成果はあったと考えられるものの、目標値と逆方向に推移した指標や、令和5年度の目標値の達成が困難な指標も散見されます。

また、主観的指標の推移についても、重要度が上昇する一方で、満足度は下落しており、教育環境への市民の関心の高さが窺えます。

いじめの認知件数は高水準で推移していることから、人権教育によるいじめの未然予防に力を入れるとともに、令和5年度に設置した「いじめ対策グループ」をはじめとする複数のチャンネルで認知機能を高めながら、認知されたいじめの早期解消にこれまで以上に取り組みます。また、不登校については、一度不登校状態になると復帰が容易でないことから、児童・生徒の不登校の兆しを捉え、早期に対応し、支援を行えるよう体制の整備を行うとともに、不登校児童・生徒へのサポートの充実を図ります。

【施策評価員の評価】

○子供たちの知識や能力の向上において不足しているところがあることから、教育指導の方法などにおいて見直しをしていく必要がある。いじめや不登校については、抜本的な対策が必要な状況と思われる。施設設備については、効率的効果的な計画推進を心掛ける必要がある。

○子どもたちが自分のよいところがあると回答した割合が目標値に到達しているのは、先生方による働きかけも影響しているのかについては気になるところである。そうであれば、その知見を他の先生方にフィードバックすることがモチベーション維持に繋がるものと思う。また、不登校の生徒については、登校だけでなく、自宅学習や適応指導教室など多様な学びの確保の検討も今後より一層、求められるように思います。

○自己肯定感と不登校児の相関関係を調査できないか。教育へのやりがいを持てる環境づくりについては、教職員の雑務からの解放に取り組む事が望まれる。

総括評価シート

基本目標	一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち
施策目標	17 誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	<p>17-① あらゆる世代の人が身近なところで学ぶことができる機会の創出を図り、その成果を地域で生かし、市民同士等がつながりを育める環境づくりを進めます。</p> <p>17-② 市民が利用しやすい魅力ある図書館運営と知の源泉となる図書館機能の充実を図り、豊かな心を育む市民の生涯学習を支援します。</p> <p>17-③ まちの価値を高め、集客と賑わいを創出する文化芸術拠点施設として総合文化施設を整備し、優れた文化芸術にふれる機会を提供するとともに、多くの市民が文化芸術活動を行うことのできる環境づくりを進めます。</p> <p>17-④ まちの魅力を創出し、まちへの愛着につながるよう、市民による身近な文化芸術活動を促進するとともに、文化芸術に対する市民の関心・理解を深める取り組みを進めます。</p> <p>17-⑤ 誰もが気軽にスポーツに親しみ、年齢や興味または関心に応じたスポーツ・レクリエーション活動ができる環境づくりを進めます。</p>

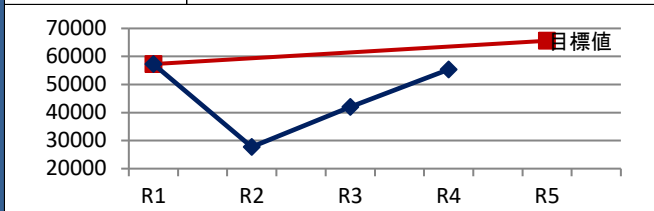
関連する実行計画

17-1	総合文化芸術センターの整備と市民文化の発信
17-2	全ての市民のスポーツの普及と推進
17-3	生涯学習活動の支援

（主観的指標の推移）	【満足度】 生きがいを持って学び続けられる環境が整っていると 感じている市民の割合	【重要度】 誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動 できるための施策が重要だと思える市民の割合								
	単位	実績	目標	単位	実績	-				
		R1	R5	R5	R1	R5	-			
	%	29.6	→	27.5	32.6	%	56.5	→	71.7	-
	【満足度】 文化芸術に親しめる環境が整っていると感じている市 民の割合									
	単位	実績	目標							
		R1	R5	R5						
	%	26.6	→	41	29.6					
	【満足度】 気軽にスポーツ活動ができる環境が整っていると感じ ている市民の割合									
	単位	実績	目標							
	R1	R5	R5							
%	31.6	→	38.4	34.6						

17-①② 生涯学習市民センター利用件数

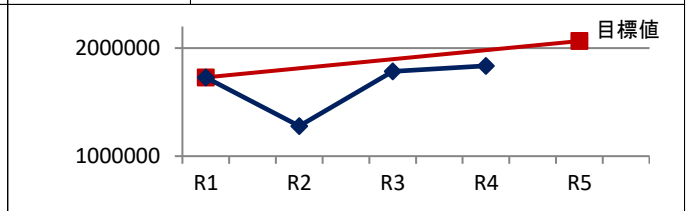
指標の説明 生涯学習市民センター（9施設）の利用件数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
件	57,282	27,747	42,005	55,311	65,601

17-② 図書館来館者数

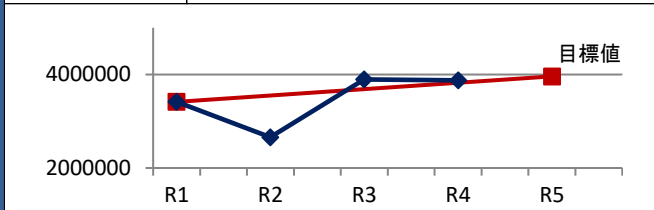
指標の説明 図書館（中央図書館・分館・分室）の年間来館者数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
人	1,729,242	1,278,739	1,785,874	1,835,822	2,065,279

17-② 図書館貸出冊数（個人・団体）

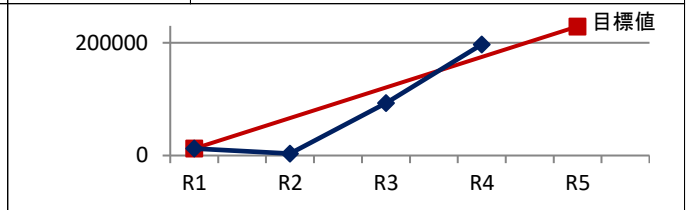
指標の説明 図書館（中央図書館・分館・分室・自動車文庫）の年間個人・団体貸出冊数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
冊	3,414,891	2,659,430	3,894,878	3,875,507	3,960,126

17-③ 文化施設ホール利用者数

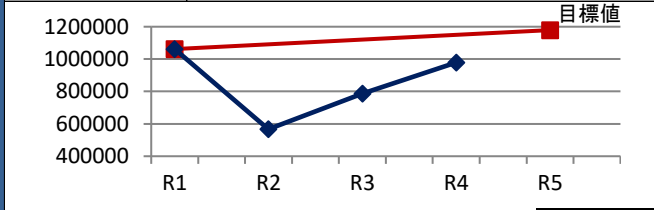
指標の説明 新たに整備する総合文化芸術センターの大・小ホール・イベントホールの年間利用者数※総合文化施設の整備までは、現市民会館大ホールの利用者数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
人	12,288	3,406	93,135	197,061	229,000

17-⑤ スポーツ施設利用者数

指標の説明 体育館やグラウンドなど市立スポーツ施設の年間利用者数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
人	1,061,879	566,970	787,074	978,005	1,179,000

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「生きがいを持って学び続けられる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して2.1ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。また、「文化芸術に親しめる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して14.4ポイント上昇しており、目標値を達成しています。さらに、「気軽にスポーツ活動ができる環境が整っていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して6.8ポイント上昇し、目標値を達成しています。重要度については、15.2ポイント上昇しています。

・施策指標「生涯学習市民センター利用件数」については、新型コロナウイルスの影響により大きく減少した令和2年度から大きく戻しており、令和5年度の目標値の達成が見込まれる状況となっています。

・施策指標「図書館来館者数」については、令和4年度にシステム更新に係る全館の臨時休館(令和4年9月15日から9月30日)を行ったものの、前年度からさらに利用者が増加しており、令和5年度の目標値の達成が見込まれる状況となっています。また、施策指標「図書館貸出冊数(個人・団体)」については、来館者数が増加した一方で、前年比で約1%の減少となりました。蔵書構成やニーズに、より留意した選書を行う必要があります。

・施策指標「文化施設ホール利用者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い入館者数の制限等を行いました。総合文化芸術センターが開館する等、令和5年度の目標値の達成が見込まれる状況となっています。

・施策指標「スポーツ施設利用者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休所等が影響し、令和2年度に大きく減少しましたが、その後は徐々に戻しており、令和5年度の目標値の達成が見込まれる状況となっています。

課題や今後の対応

5つの客観的指標のうち、2つについては既に目標値を達成し、その他についても目標値を達成する見込みとなっています。

一方、主観的指標の推移を見ると、満足度のうち2つは目標値を達成していますが、「生きがいを持って学び続けられる環境が整っていると感じている市民の割合」が令和元年度から下落していることから、市民ニーズの把握に努め、取り組みに反映していく必要があります。

今後は、総合文化芸術センターにおける鑑賞機会を充実させ、文化芸術の裾野の拡大を図ります。また、市民が質の高いプロスポーツに触れる機会を創出するため、プロスポーツチームと連携し、観る・するスポーツを推進します。あわせて、生涯学習市民センターにおける魅力的な事業の実施や、サークル活動の積極的な紹介を通じ、生涯学習活動への参加機会の増大に取り組みます。

【施策評価員の評価】

○生涯学習は、趣味や余暇の活動よりも実質的に生きがいや生業に影響するものが求められてきているように思われるので、市民ニーズも探りながら組み換えを検討する必要がある。文化芸術活動は市民生活の日常に位置付けられてこそ意味があることから、地域や家庭での活動にも焦点を当てる必要がある。図書館はこれから情報化の拠点として重要性が増すことから、ネットワークを駆使した情報の受発信ができる体制を整えていく必要がある。スポーツ活動は活発化していることから、次のステップとしては、市民にさらに広げていくこと、そしてスポーツ活動の質を上げていくことが求められる。

○「生きがいを持って学び続けられる環境が整っていると感じている市民の割合」が令和元年度より減少しており、新型コロナウイルス感染症関連による結果なのか、あるいはそもそも市民のニーズと生涯学習支援にギャップがあるのかなど慎重な検討や対応が求められる。

総括評価シート

基本目標	地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
施策目標	18 人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち
4つの重点的に進める施策との関係	4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる
取り組みの方向	<p>利便性が高く、魅力あふれる中心市街地の形成に向けて、商業、文化芸術、居住施設18-①をはじめ、緑化等による景観など、交通結節点におけるさまざまな機能を充実できるよう、枚方市駅周辺の再整備を進めます。</p> <p>18-② 枚方市駅周辺が、人々が集い交流し、さまざまな活動が活発に展開される拠点となるよう、さまざまなイベントの開催など賑わいづくりを創出します。</p>

関連する実行計画

18-1 枚方市駅周辺の賑わいの創出

（主観的指標の推移）	【満足度】 枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じている市民の割合	【重要度】 人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地をつくるための施策が重要だと思ふ市民の割合							
	単位	実績	目標	単位	実績	-			
		R1	R5	R5	R1	R5	-		
	%	42.6	→	40.2	47.6	%	54.4	→	67.1

（客観的指標の推移）	18-① 枚方市駅利用者の市域人口に対する割合【社会指標】	18-② 枚方市駅周辺の広場におけるイベント参加者数										
	指標の説明	枚方市駅の乗降客数（日あたり）／市域人口	指標の説明	枚方市駅周辺の岡東中央公園や岡本町公園で実施されたイベントの参加者数								
	単位	実績	めざすべき方向	単位	実績	目標						
%	R1	R2	R3	R4	R5	R5	単位	R1	R2	R3	R4	R5
%	24.1	19.0	19.0	-	↗	人	210,200	23,139	35,313	39,477	210,000	

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「枚方市駅周辺が賑わい、魅力あふれる中心市街地であると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して2.4ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して12.7ポイント上昇しています。

・施策指標「枚方市駅利用者の市域人口に対する割合」については、新型コロナウイルスの影響による利用者の減少もあり、令和2年度から令和3年度は低水準となっています。なお、令和4年度の実績は令和6年3月頃に算出予定です。

・施策指標「枚方市駅周辺の広場におけるイベント参加者数」については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うイベント中止等の影響により、目標値を大きく下回っています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものがあり、施策の是非の判断は慎重に行う必要がありますが、令和5年度の目標値の達成に向け、枚方市駅前のにぎわいにつながる取り組みを充実する必要があります。

また、主観的指標の推移を見ると、重要度が上昇している一方で、満足度は下落しており、枚方市駅周辺の賑わいと魅力創出が求められていることが窺えます。

今後は、整備が進められている③街区のまちびらきにあわせ、令和6年度中に複合施設内に生涯学習交流センターや図書館、市民窓口など、行政サービス等の機能を移転・集約することで、市民の利便性向上を図ります。また、④⑤街区については、枚方市駅周辺の再整備の取り組み内容について、市民に対し十分に発信しながら都市計画決定に向けた取り組みを進めます。

【施策評価員の評価】

○市民の期待が高いことから、それにこたえることができる駅前の賑わいを、目指すべき。そのためにはまず現状においてどのように工夫するのか、イベントや着手中の事業も活用しながら、組立て直しが必要。また駅周辺の再整備事業については、賑わいを確保するという観点に基づいて、それに資する事業の優先順位付けが必要であり、社会経済情勢が大きく変化している状況を踏まえ、目的や効果を十分に発信しながら取り組むべきである。また、状況に応じて、将来の見通しも立て直しながら、必要な見直しも大胆に進めることもあってよい。

○主観的指標から、市民にとっては重要な施策であることがわかる。枚方市駅周辺の開発については、現在取り組まれているところではあるが、市民不在の取り組みにはくれぐれもならないよう、市民への発信や理解を促すことだけでなく、市民発信の声も反映した対応が必要である。

○魅力度の演出の具体像が見えない。賑わいの創出は、イベント開催ばかりではない。市駅周辺整備により、中心性は高まると思われるが、個々のエリア単独の事業ではなく、周辺の社会資源と複合的に組み合わせたエリア全体のマネジメントをすることで人の流れは生まれる。

総括評価シート

基本目標	地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
施策目標	19 地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち
4つの重点的に進める施策との関係	4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる
取り組みの方向	<p>19-① 歴史文化遺産を活用したまちづくりを推進し、情報発信を充実することにより、まちへの愛着を育みます。</p> <p>19-② 本市が有する歴史文化遺産や淀川、東部地域の自然などの貴重な観光資源を効果的に発信し、地域内外の交流機会の創出を図ります。</p> <p>19-③ 大学の知的資源をまちづくりに生かすため、「学園都市ひらかた推進協議会」などによる大学施設を利用した学習・交流機会の充実や産学公の連携による取り組みを進めます。</p> <p>19-④ 学生の活力を生かしたまちづくりを進めるため、教育などさまざまな分野で、学生のまちづくりへの参画を図ります。</p>

関連する実行計画

19-1	歴史的資源等の保存と活用
19-2	産学公連携の推進
19-3	国際化施策の推進

（施策指標の推移） 主観的指標	【満足度】 市の観光資源が生かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合				【重要度】 地域資源を生かし、人々の交流を盛んにするための施策が重要だと思える市民の割合					
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	21.2	→	17.8	24.2	%	44.6	→	63.8	-

(客観的指標の推移)	19-① 旧田中家鋳物民俗資料館等と学校教育との連携行事参加者数					19-② 観光ステーション利用者数						
	指標の説明		旧田中家鋳物民俗資料館及び枚方宿鍵屋資料館の市内小学校の団体入館者数及び資料館職員が市内小学校に出向いて行う出前講座の受講者数			指標の説明		市内の観光情報の発信や、枚方のオリジナルグッズを扱うひらかた観光ステーションにおける購入者数				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
		R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
	人	3,571	1,579	2,330	3,044	5,150	人	23,720	24,528	28,043	19,764	55,000
19-③ 市と大学との連携事業に参加した市民の人数					19-④ 市と大学との連携事業に参加した学生数							
指標の説明		ひらかた市民大学・子ども大学探検隊に参加した市民の人数			指標の説明		イベントの開催など市と市内大学との連携事業に参加した学生数					
単位	実績				目標	単位	実績				目標	
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5	
人	431	101	258	263	410	人	1,904	934	922	1,794	2,900	

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「市の観光資源が生かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して3.4ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して18.2ポイント上昇しています。

・施策指標「旧田中家鋳物民俗資料館等と学校教育との連携行事参加者数」については、新型コロナウイルスの影響により令和2年度に大きく減少した後、徐々に目標値に向かって推移しているものの、令和元年度の値を下回っており、積極的な周知等引き続き取り組みを進める必要があります。

・施策指標「観光ステーション利用者数」については、枚方市駅再開発工事に伴い、令和4年度に観光ステーションを閉鎖しており、目標値の達成には至りませんでした。

・施策指標「市と大学との連携事業に参加した市民の人数」及び「市と大学との連携事業に参加した学生数」については、新型コロナウイルスの影響により令和2年度に大きく減少した後、徐々に目標値に向かって推移しているものの、令和元年度の値を下回っており、積極的な周知等引き続き取り組みを進める必要があります。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、1つが目標値不達成となり、その他は令和元年度の値を下回っています。また、主観的指標の推移を見ると、満足度が下落している一方、重要度は上昇しており、学園都市という市の特色や観光資源を活用した交流促進に向け、プロモーションの強化など、取り組みの充実が必要です。

今後は、枚方宿を起点とする観光事業の展開や、百済寺跡の築地塀再現など市の観光資源を活用した人々の交流とにぎわいの創出に取り組みます。あわせて、新たな観光資源の掘り起こしや情報発信に取り組みます。

【施策評価員の評価】

○従来の観光振興的な地域資源活用の考え方は効果がないことが明らかなので、文化財の保全にとどめて、新たな視点で事業展開を考えるべき時期に来ている。大学連携も形だけになっており、実質的に連携の成果を市民と大学大学生が享受できる枠組みを模索することから始めなければならない。国際交流や多文化共生は、市民とその暮らしの中で実現するべく発想を変える必要があるのではないか。交流事業の抜本的な組替えを考えるべきであろう。

○「市の観光資源が生かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合」は令和元年度を下回り20%未満となっており、市の観光資源が思い浮かばない市民も多いのではないかと思う。地域のこれまでの観光資源の整理や他にも特色のある観光資源がないかなど、一度、市内の観光資源について見直しを図り、まずはいくつかの観光資源に絞った企画や発信から始めてみるのもよいのではないか。その際に市内の大学や大学生にも協力を呼びかけ、一体となって展開するのまちの活性化にも繋がると思う。

○枚方市は中心性に欠ける面がある。駅周辺整備により、求心力を高められると思われるが、さらに入れ子構造的に、樟葉/枚方/香里園及び東部エリアの拠点特性と地域資源を立体的に組み合わせることで、枚方のアイデンティティの明確な形成を図ることが望ましい。広域連携的な観点が必要である。

総括評価シート

基本目標	地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
施策目標	20 いきいきと働くことのできるまち
4つの重点的に進める施策との関係	4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる
取り組みの方向	20- 就職困難者に対する就労支援をはじめ、地域の実情に応じた新たな雇用機会の創出など、雇用対策の充実に取り組みます。

関連する実行計画

20-1	就労環境の向上
20-2	雇用機会の確保

（主観的指標の推移）	【満足度】 市内での産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合	【重要度】 いきいきと働くことができるための施策が重要だと思う市民の割合																												
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>20.7</td> <td>→</td> <td>20.2</td> <td>25.7</td> </tr> </table>	単位	実績			目標	R1		R5	R5	%	20.7	→	20.2	25.7	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>-</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>59.1</td> <td>→</td> <td>76.1</td> <td>-</td> </tr> </table>	単位	実績			-	R1		R5	-	%	59.1	→	76.1	-
	単位		実績			目標																								
R1			R5	R5																										
%	20.7	→	20.2	25.7																										
単位	実績			-																										
	R1		R5	-																										
%	59.1	→	76.1	-																										

（客観的指標の推移）	20-① 地域就労支援センター相談者等のうち就労に結びついた人数	20-① 就労支援対象者（生活保護受給者・生活困窮者）のうち就労に結びついた人数																																							
	<p>指標の説明</p> <p>地域就労支援センター相談者及び合同企業就職面接会参加者のうち実際に就労に結びついた人数</p>	<p>指標の説明</p> <p>生活保護受給者及び生活困窮者のうち就労支援事業及び「就労支援ひらかた（ハローワークコーナー）」において実際に就労に結びついた人数※生活困窮者への就労支援はH27年度から実施。また、「就労支援ひらかた」はH27年4月から開設</p>																																							
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>人</td> <td>47</td> <td>31</td> <td>61</td> <td>65</td> <td>109</td> <td>109</td> </tr> </table>	単位	実績					目標	R1	R2	R3	R4	R5	R5	人	47	31	61	65	109	109	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>人</td> <td>98</td> <td>97</td> <td>188</td> <td>153</td> <td>220</td> <td>220</td> </tr> </table>	単位	実績					目標	R1	R2	R3	R4	R5	R5	人	98	97	188	153	220
単位	実績					目標																																			
	R1	R2	R3	R4	R5	R5																																			
人	47	31	61	65	109	109																																			
単位	実績					目標																																			
	R1	R2	R3	R4	R5	R5																																			
人	98	97	188	153	220	220																																			

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「市内での産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して0.5ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して17ポイント上昇しています。

・施策指標「地域就労支援センター相談者等のうち就労に結びついた人数」については令和元年度の値と比較して18人増加しているものの、目標値の達成に向けて引き続き取り組みを進める必要があります。施策指標「就労支援対象者(生活保護受給者・生活困窮者)のうち就労に結びついた人数」については、令和3年度に大きく増加したものの、令和4年度には減少に転じています。もっとも、支援対象者が減少傾向であり、就職率は増加している状況です。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、いずれも策定時の値を上回っており、目標値の達成に向けて引き続き取り組みが必要です。主観的指標の推移については、満足度が下落する一方、重要度が上昇しており、若年層の市内企業への就職に向けたマッチング等、市内産業の活性化に向け取り組む必要があります。

今後は、企業と求職者のミスマッチの解消に向け、マッチング機会を積極的に提供していきます。また、2025年の大阪・関西万博を見据え、市内のものづくり企業の認知度向上と地域経済の活性化を図るため、企業と地域で一体的に実施していく「オープンファクトリー」の開催に向け取り組みます。

【施策評価員の評価】

○若者と地元企業とのマッチング手法の開発としてインターン制度の活用はどうか。就職困難者や自立支援対象者のためのプログラムの充実のために勤労生活の習慣や社会生活への適応を進める方策や、お試し雇用による軟着陸も検討の余地がある。

○子育て世代の中でも子育てが落ち着けば、仕事をしたいと思う女性も増えることかと思う。柔軟な働き方が可能であったり、中途入社であってもキャリアアップを目指せるような体制の企業が増えると、求職者と企業とのマッチング率も高まるし、その他の施策にもより良い影響に繋がるものと思う。

○生産年齢人口の減少に伴い、働き手の確保が今後さらなる課題となる。枚方市の活力を維持していくためにも、事業者の自助努力に任せず、事業者が枚方で事業を行いたいと考える支援、環境づくりが必要である。

○人手不足が課題であるならば、企業と求職者のミスマッチであり、互いのニーズを探り就労環境を掘り下げて検討する事が望ましい。日本国民として、生き生きと働き甲斐のあるライフプランを持ちにくい現代の時流に問題がある。

総括評価シート

基本目標	地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
施策目標	21 地域産業が活発に展開されるまち
4つの重点的に進める施策との関係	4 人々が交流し、賑わいのあるまちをつくる
取り組みの方向	21- 企業誘致を促進するほか、企業団地などを中心に製造業の集積を図るなど、市内産業の活性化を図ります。 ① 中小企業の競争力強化のため、経営基盤の強化を図るとともに、産業技術や製品などを広く発信することで、市内産業の振興を図ります。 21- ② 創業を希望する個人等が市内で独立創業できる環境づくりの充実を図ります。市内の企業・個人等が特徴ある地域資源などを活用した新たな事業展開に取り組める環境づくりを進めます。 21- ③ 身近な地域で買い物ができる利便性の向上や、地域活力の向上を図るため、主体的に取り組む商店街の活性化を図ります。 21- ④

関連する実行計画

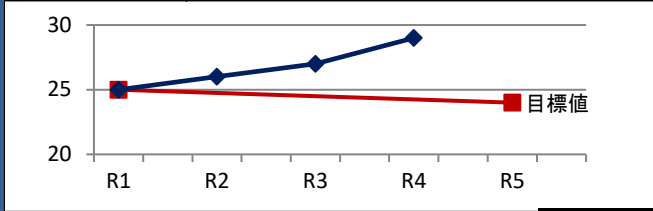
21-1	起業・創業の支援
21-2	商業の活性化
21-3	工業の活性化

（施策指標の推移） 主観的指標	【満足度】【再掲】 市内での産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合					【重要度】 地域産業を活発に展開するための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	20.7	→	20.2	25.7	%	55.2	→	69.5	-

（施策指標の推移
客観的指標）

21-① 地域産業基盤強化奨励金を受けて、新規立地及び設備投資した件数（累計）

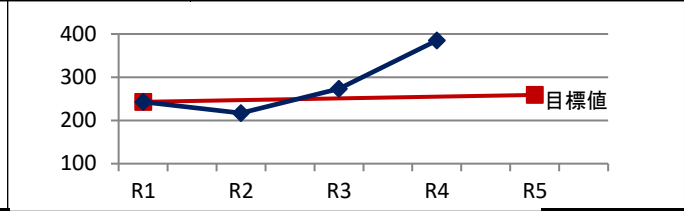
指標の説明 地域産業基盤強化奨励金制度の認定を受けて、市内の産業集積地域において製造業事業者が新規立地や設備投資を行った件数（累計）



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
件	25	26	27	29	24

21-② 地域活性化支援センターにおける経営相談の件数

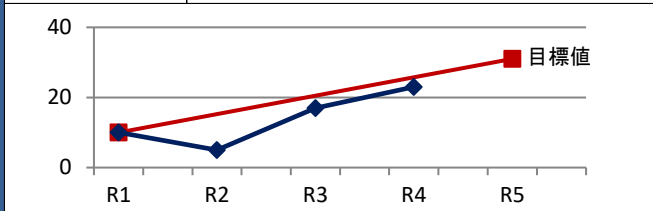
指標の説明 地域活性化支援センターにおける経営相談の件数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
件	243	217	273	385	259

21-③ 市の創業支援を受けて創業した件数

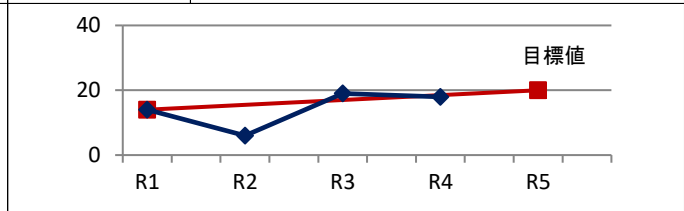
指標の説明 地域活性化支援センターにおける創業支援や地域資源を活用した新規事業支援により創業した件数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
件	10	5	17	23	31

21-④ 市内企業が市の支援を受けて各種展示会の出展に取り組んだ件数

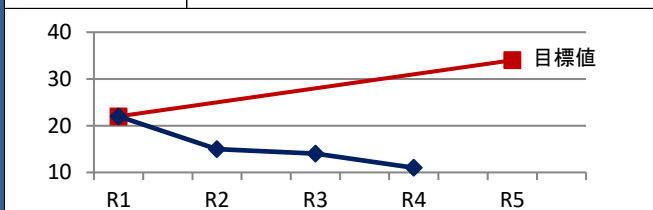
指標の説明 市内企業が市の支援を受けて各種展示会に出展し販路拡大に取り組んだ件数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
件	14	6	19	18	20

21-⑤ 商店街が市の支援を受けて活性化に取り組んだ件数

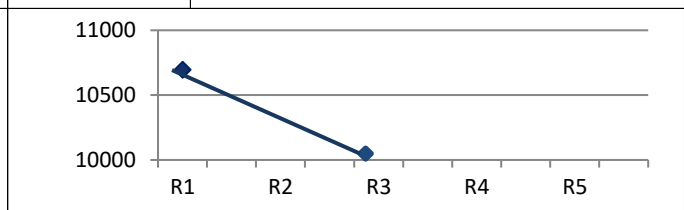
指標の説明 商店街が市の支援制度を活用して活性化に取り組んだ件数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
件	22	15	14	11	34

21-①～⑥ 市内民営事業所数【社会指標】

指標の説明 市内の全民営事業所数（経済センサス-基礎調査、経済センサス-活動調査より）



単位	実績				めざすべき方向
	R1	R2	R3	R4	R5
事業所	10,696	-	10,029	-	↗

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「市内での産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して0.5ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して14.3ポイント上昇しています。
- ・施策指標「地域産業基盤強化奨励金を受けて、新規立地及び設備投資した件数」については、既に目標値を達成しています。
- ・施策指標「地域活性化支援センターにおける経営相談の件数」については、創業やサービス業に関する相談が増加し、令和3年度に目標値を達成しています。
- ・施策指標「市内企業が市の支援を受けて各種展示会の出展に取り組んだ件数」については、令和元年度の値を令和3年度および令和4年度と上回っており、令和5年度の目標値の達成が見込まれる状況となっています。
- ・施策指標「市の創業支援を受けて創業した件数」については、インキュベートルームの入居要件緩和やテイクオフ補助金の対象要件の変更、小規模事業者持続化補助金(創業枠)の創設により、地域活性化支援センターで創業支援を受け創業する事業者が増加し、令和5年度の目標値の達成が見込まれる状況となっています。
- ・施策指標「商店街が市の支援を受けて活性化に取り組んだ件数」については、策定時の値を下回っており、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。
- ・施策指標「市内民営事業所数」については、めざすべき方向と逆方向に推移しており、引き続き取り組みを進める必要があります。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、5つの指標のうち2つは既に目標を達成しており、2つは令和5年度に達成する見込みとなっているなど、施策全体として一定の成果があったと考えられます。一方、主観的指標の推移を見ると、満足度は下落していますが、重要度については上昇しており、引き続き地域産業の活性化に向け取り組む必要があります。

今後は、地域活性化支援センターのリニューアルオープンを見据え、北大阪商工会議所との連携を強化し、テレワーク環境の整備や若手起業家等の支援の充実に取り組みます。

商店街の活性化については、内外から商店街へ主体的に関わることを可能とするため、支援制度の対象者要件の緩和を予定しています。

【施策評価員の評価】

○製造業については、相談件数などからすると、可能性はまだ大きく、支援体制が十分かどうか検討の余地がある。商業については、衰退傾向であり、新たな分野での開業支援などに資源を振り向ける必要がある。

○商店街の活性化や市内の民営事業者数の推移を見ていると、目標値との乖離が見られるので、関係者のおかれている現状やニーズ把握に努めることも今後の対応として求められる。

○補助金ありきではなく、地域産業とはなにか、強みと弱みの特性を分析したうえで有形無形の支援策が望ましく、大学・企業も巻き込み、行政はハブとなってWinWinの関係の構築が求められる。

総括評価シート

基本目標	地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
施策目標	22 農を守り、生かすまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	<p>22- より新鮮で安全な農産物を供給するため、地産地消の推進や環境にやさしい農産物①の普及・拡大を図ります。</p> <p>22- 「農」を守るため、農業の担い手を育成し、本市での就農を促進するとともに、幅広い世代で「農」とふれあう機会の充実を図ります。</p>

関連する実行計画

22-1	新規農業者の育成
------	----------

(主観的指標の推移)	【満足度】 農地が保全されるなど、「農」を守り、生かされていると感じている市民の割合	【重要度】 農を守り、生かすための施策が重要と思う市民の割合																														
	<table border="1"> <tr> <th>単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <td></td> <td>R1</td> <td></td> <td>R5</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>23.6</td> <td>→</td> <td>16.5</td> <td>26.6</td> </tr> </table>	単位	実績			目標		R1		R5	R5	%	23.6	→	16.5	26.6	<table border="1"> <tr> <th>単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <td></td> <td>R1</td> <td></td> <td>R5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>51.8</td> <td>→</td> <td>69.4</td> <td>-</td> </tr> </table>	単位	実績			目標		R1		R5	-	%	51.8	→	69.4	-
	単位	実績			目標																											
	R1		R5	R5																												
%	23.6	→	16.5	26.6																												
単位	実績			目標																												
	R1		R5	-																												
%	51.8	→	69.4	-																												

(客観的指標の推移)	22-① エコ農産物認証申請栽培面積	22-① 市内各所での「ふれあい朝市」の開催回数																																									
	<p>指標の説明</p> <p>農薬の使用回数や化学肥料の使用量など一定基準を満たすエコ農産物認証を申請して、認証された面積</p>	<p>指標の説明</p> <p>枚方市駅周辺をはじめとした市内各所での「ふれあい朝市」の開催回数</p>																																									
	<table border="1"> <tr> <th>単位</th> <th colspan="5">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <td></td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>アール</td> <td>5,625.4</td> <td>5,511.0</td> <td>5,080.5</td> <td>5,170.2</td> <td>6,900.0</td> <td>6,900.0</td> </tr> </table>	単位	実績					目標		R1	R2	R3	R4	R5	R5	アール	5,625.4	5,511.0	5,080.5	5,170.2	6,900.0	6,900.0	<table border="1"> <tr> <th>単位</th> <th colspan="5">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <td></td> <td>R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>回</td> <td>738</td> <td>709</td> <td>590</td> <td>535</td> <td>800</td> <td>800</td> </tr> </table>	単位	実績					目標		R1	R2	R3	R4	R5	R5	回	738	709	590	535	800
単位	実績					目標																																					
	R1	R2	R3	R4	R5	R5																																					
アール	5,625.4	5,511.0	5,080.5	5,170.2	6,900.0	6,900.0																																					
単位	実績					目標																																					
	R1	R2	R3	R4	R5	R5																																					
回	738	709	590	535	800	800																																					

(客観的指標の推移) 施策指標の推移	22-② 認定農業者及び認定新規就農者					22-② 農業ふれあい体験者数																																						
	指標の説明		農業経営基盤強化促進法に基づき本市が認定した農業者数(意欲的な担い手である「認定農業者」と新規に農業を開始した「認定新規就農者」)			指標の説明		地元農家が育てた野菜などを収穫する農業ふれあいツアーの体験者数																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>					単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	人	1	1	3	9	10	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>2,655</td> <td>0</td> <td>657</td> <td>1,640</td> <td>5,500</td> </tr> </tbody> </table>					単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	人	2,655	0	657	1,640	5,500
	単位	実績					目標																																					
		R1	R2	R3	R4	R5																																						
	人	1	1	3	9	10																																						
	単位	実績				目標																																						
		R1	R2	R3	R4	R5																																						
	人	2,655	0	657	1,640	5,500																																						
22-② 食農体験学習実施校数																																												
指標の説明		地元農家の指導により植付から収穫までを連続的に体験する食農体験学習を実施した小学校数																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>校</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>										単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	校	13	0	5	8	21																		
単位	実績				目標																																							
	R1	R2	R3	R4	R5																																							
校	13	0	5	8	21																																							

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「農地が保全されるなど、「農」を守り、生かされていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して7.1ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については令和元年度と比較して17.6ポイント上昇しています。
- ・施策指標「認定農業者及び認定新規就農者」については順調に推移し、令和5年度の目標値の達成が見込まれます。
- ・施策指標「エコ農産物認証申請栽培面積」については、農業者の高齢化や農地面積の減少に伴い、エコ農産物認証申請者が減少傾向であり、目標値の達成は困難な状況となっています。
- ・施策指標「市内各所での「ふれあい朝市」の開催回数」「農業ふれあい体験者数」については、農業者の高齢化や農地面積の減少に伴い、目標値の達成は困難な状況となっています。
- ・施策指標「農業ふれあい体験者数」及び「食農体学習実施校数」については、農業者の高齢化等により農業体験指導者が減少傾向にあり、目標値の達成は困難な状況となっています。

課題や今後の対応

5つの客観的指標のうち、「認定農業者及び認定新規就農者」については目標値を達成する見込みであるものの、残り4つについては、農業者の高齢化等に伴い、目標値の達成が困難となっています。

また、主観的指標の推移を見ると、重要度が上昇する一方、満足度が下落しており、農地が保全されるなど、農を守り、生かすための取り組みを充実する必要があります。

今後は、高齢化していく農業者が引き続き各事業に参加でき、市民満足度が向上する持続可能な方策を検討するとともに、新規就農者については、関係機関と連携するなど、就農から経営までサポートを充実させ、新規就農者の経営安定化に向け取り組みます。あわせて、本市の特産物を活かした新たな商品開発や、6次産業化の推進などにより、本市の農業振興を図り、市民満足度の向上に取り組んでいきます。

【施策評価員の評価】

○大都市圏に属する枚方市の特性からすれば、農業は環境保全型を基本として、公共的関与を強めていくこと、遊休農地、耕作放棄地をなくすことを目標とすることなどが必要ではないか。有機農法などで経営を確立する方法もあるが、個別の特定の農家の努力に依存するため、高齢化が進む慣行農業農家にはハードルは高い。農地の集約なども市が積極的に取り組みを進めてもよいのではないか。

○「農地が保全されるなど、「農」を守り、生かされていると感じている市民の割合」が16.5%と目標値との乖離が見られる一方で、重要度は70%に迫る勢いであり、市民にとって重要な施策であることがわかる。検討する上での課題として、農業者の高齢化があり、後継者確保や育成に着目する必要もある。ICTを活用した様々な販路拡大の開発など、新しいシステム導入の検討をすることも、若い世代の興味や関心にもつながるものと思います。また、昨今、農福連携という言葉もありますように、社会福祉法人との連携なども視野に入れるのも今後の対応策の一つになるかとも思います。

○高齢化に対応した、人材の発掘・育成と支援が必要であり、その仲介が求められる。農業を新たな産業と捉える視点での推進が望ましい。

総括評価シート

基本目標	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標	23 豊かな自然環境を大切にするまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	23- 里山などの豊かな自然空間を保全・継承していくため、自然と親しみ、自然の大切さを発信するとともに、森林ボランティア育成などに取り組みます。 ① 23- 市街地に残された貴重な農地や樹林地の保全に取り組みます。 ②

関連する実行計画

23-1	里山の保全
------	-------

(主観的指標の推移)	【満足度】 里山や農地などの豊かな自然環境が保全されていると感じている市民の割合	【重要度】 豊かな自然環境を大切にするための施策が重要だと思う市民の割合								
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	32.8	→	24.4	43.2	%	62.2	→	78.8	-

(客観的指標の推移)	23-① 森林ボランティア育成講座修了者数（累計）					23-① 里山保全活動団体の活動日数					
	指標の説明	森林ボランティア育成講座の受講者のうち、規定の日数に出席し、修了証を取得した人数（累計）				指標の説明	東部地域で活動する里山ボランティア活動団体の年間活動日数（累計）				
	単位	実績				目標	単位	実績			
人	R1	R2	R3	R4	R5	日	R1	R2	R3	R4	R5
	327	358	376	392	393		3,294	3,584	3,854	4,220	4,412

（客観的指標の推移） 施策指標の推移	23-② 緑地面積					23-① 東部地域の緑被率					
	指標の説明		都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地の面積			指標の説明		第二京阪道路以東の地域における緑で被われた土地の面積の割合			
	単位	実績				目標	単位	実績			
ha	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5
	1,509	1,536	1,535	1,530	1,521		78.7	-	-	-	77.9

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「里山や農地などの豊かな自然環境が保全されていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して8.4ポイント下落しています。一方、重要度については令和元年度と比較して、16.6ポイント上昇しています。

・施策指標「森林ボランティア育成講座終了者数」、「里山保全活動団体の活動日数」及び「緑地面積」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

客観的指標のうち実績が確認できるものについては、既に目標値を達成しており、施策全体として見れば一定の成果があったと考えられます。一方、主観的指標の推移については、満足度が下落しており、重要度については上昇していることから、特に取り組みの実績と市民意識のギャップの要因を把握する必要があります。

今後は、東部地域の豊かな自然環境を守るため、森林ボランティアをはじめとする新たな担い手の発掘に取り組むとともに、里山保全活動団体や企業による環境貢献活動を支援するなど、里山保全の取り組みを進めます。

【施策評価員の評価】

○自然環境に対する市民の意識が高まっており、それにこたえるための施策が求められる。従来の里山保全ボランティアの枠にとどまらず、自然体験学習など観察会やさまざまなフィールドワークを展開すること、学校園の参加を拡大することなどが、求められている。

○「課題や今後の対応」で示されているように、取り組みの実績と市民意識の乖離の要因を探ることが大切になるかと思う。取り組みの実績が十分に発信できていないことも考えられるので、ホームページや広報ひらかた、SNS投稿などにより、講座修了者の声や団体の活動風景などの発信を検討してはどうか。

○保全というスタンスだけでは弱く、里山を経済サイクルの一環と考え、新しいスタイルの農業継承者の発掘や、里山経営のコーディネーターの育成により持続性が保たれる必要がある。

総括評価シート

基本目標	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標	24 まちなかのみどりを育てるまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	<p>24- 市民が日常生活の中で、自然とふれあい親しめる場を確保するため、まちなかのみどりや、子育て世帯など幅広い世代の人々にとって憩いの場となる公園、河川敷などの</p> <p>① 緑地空間を守り、創出します。</p>

関連する実行計画

24-1	公園施設の整備と維持管理
24-2	市民参加によるみどりを支える仕組みの充実

（施策指標の推移）	【満足度】 普段の生活の中でみどりとふれあえると感じている市民の割合				【重要度】 まちなかのみどりを育てるための施策が重要だと思う市民の割合					
	単位	実績		目標	単位	実績		-		
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	48.3	→	48.0	51.4	%	65.8	→	75.1	-

(客観的指標の推移)	24-① 街路樹延長距離					24-① まちなかの緑被率						
	指標の説明		市道の緑化済道路延長距離			指標の説明		第二京阪道路以西の地域における緑で被われた土地の面積の割合				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
		R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
	m	34,283	34,451	34,451	34,472	35,700	%	29.7	-	-	-	29.7
24-① 【再掲】 緑地面積												
指標の説明		都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地の面積										
単位	実績				目標							
	R1	R2	R3	R4	R5							
ha	1,509	1,536	1,535	1,530	1,521							

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「普段の生活の中でみどりとふれあえると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して0.3ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については令和元年度と比較して、9.3ポイント上昇しています。

・施策指標「街路樹延長距離」については、実績値として示されるのが供用開始をした道路であることから、令和元年度からの伸びは189mと緩やかになっています。もっとも、各路線において用地取得や詳細設計、道路整備工事は滞りなく進められており、令和5年度目標値は達成見込みとなっています。

課題や今後の対応

客観的指標のうち実績が確認できるものについては、既に目標値を達成しているか、達成が見込まれており、施策全体として見れば一定の成果はあったと考えられます。一方で、主観的指標の推移を見ると、重要度は上昇していますが、満足度は若干下落しているため、まちなかの緑を感じてもらうために今後何が求められるのか分析が必要です。

今後は、街路樹維持管理方針を策定し、緑豊かなまちづくりにおいて重要な役割を担う街路樹を、効率的・効果的に維持管理していきます。また、王仁公園について、引き続き市民ニーズを捉えながら、P-PFI（公募設置管理許可制度）等の活用も含め、多くの市民にとって魅力ある公園とするための取り組みを進めます。

【施策評価員の評価】

○街中の緑を増やしていくためには、公園や街路樹だけではなく、空き地の緑化や河川敷・河川堤防の緑化、建築物の生垣、壁面緑化、屋上緑化など、様々な緑化を総合して考える必要がある。

○校区ごとでまちの中の公園も含む清掃活動を行ったり、市として小学生や高齢者、障害者をはじめ市民による植樹や公園の散策体験など、自然とふれあえる機会をつくるのも、満足度の向上に寄与するのではないかなと思います。

○公園等の面としての緑だけではなく、街中の潤いとしては街路樹の線の保全が求められる。今般、安全を理由に老木・倒木を伐採したままの状態が見受けられ、理念に反し残念である。また並木の落葉清掃等を、市民参加のシステムとしてサポートする施策が望まれる。

総括評価シート

基本目標	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標	25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	25- ごみの発生抑制を最優先に、4R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）①を推進します。 25- 穂谷川清掃工場第3プラントの老朽化に伴い、新たなごみ処理施設の整備を進めます②。

関連する実行計画

25-1 ごみ総量の削減と資源化の推進

（主観的指標の推移）	【満足度】 ごみ減量や資源循環が進んでいると感じている市民の割合	【重要度】 ごみを減らし、資源の循環を進めるための施策が重要だと思う市民の割合								
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	46.8	→	34.7	49.8	%	70.9	→	80.2	-

（客観的指標の推移）	25-① 市民1人当たりのごみの排出量					25-① ごみの資源化率						
	指標の説明	ごみの排出量（1日当たり）／人口				指標の説明	資源化できたごみの量／ごみの総排出量					
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
	g	R1	R2	R3	R4	R5	%	R1	R2	R3	R4	R5

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「ごみ減量や資源循環が進んでいると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して12.1ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方で、重要度については、令和元年度と比較して9.3ポイント上昇しています。

・施策指標「市民1人当たりのごみの排出量」については、既に目標値を達成しています。一方で、「ごみの資源化率」については、新聞や雑誌のデジタル化により再生資源集団回収量が減っており、ごみの資源化率は減少傾向となっています。

施策指標「新たなごみ処理施設整備の進捗状況」については処理施設の整備に向けてスケジュール通りの進捗となっています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移について、3つのうち1つは既に目標値を達成しており、1つは令和5年度の目標値の達成が見込まれます。また、残りの「ごみの資源化率」については、目指す方向とは逆方向に推移しているものの、デジタル化の進展に伴うものであり、環境負荷の低減という点では必ずしも消極的な評価にはつながらないと考えます。

主観的指標の推移については、満足度が下落していますが、重要度は上昇しており、ごみ減量の取り組みをより一層推進する必要があります。

今後は、枚方クリーンリバーやアダプトプログラム実施団体との連携により、プラスチックごみのポイ捨て防止や使い捨てプラスチックの使用削減に向けた啓発など、ごみ減量に向けた取り組みを進めます。また、京田辺市との共同による可燃ごみ広域処理施設の令和7年度末の本格稼働に向けて建築工事を推進します。

【施策評価員の評価】

○新聞や雑誌の紙ごみは少なくなっているが雑紙などの紙ごみはあること、プラスチック、容器包装、生ごみなどの分別が徹底されるとさらに排出量（焼却処分量）は少なくなると思われる。事業系ごみについては、事業所ごとの分別と搬入の適正料金体系を検討すべき。生ごみたい肥化やその活用は難しいところもあるが、検討課題か。

○「ごみ減量や資源循環が進んでいると感じている市民の割合」がかなりの下落となっており、市の取り組みや実績の背景について十分にPRできていない可能性がある。そのため、どのような発信をすれば、市の取り組みがより市民に伝わるのかについても、さまざまな取り組みの柱の一つとして盛り込んでもよいのではないかと。

○分別が煩雑な割には、ごみの資源化率は高まっていない。分別ルールを見直す必要にあるのではないかと。

総括評価シート

基本目標	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標	26 安全で良好な生活環境が確保されたまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	26- 大気・土壌汚染等の公害の未然防止を図るとともに、産業廃棄物などの発生抑制や適 ① 正処理の推進に取り組みます。 26- 市民の生活や産業活動を支えるため、安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給 ② します。 26- 河川や水路、池などの水質汚濁の防止を図るため、公共下水道の整備を促進すると ③ もに、生活排水等の適正処理を進めます。

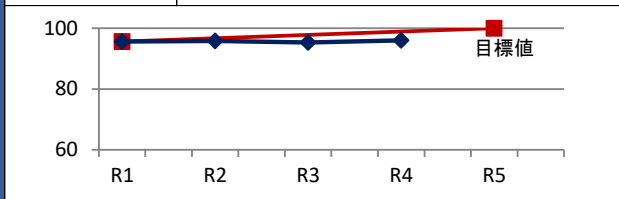
関連する実行計画

26-1	産業廃棄物等の適正処理の推進
26-2	上水道及び生活排水の適正処理の推進

（施策指標の推移）	【満足度】 安全で良好な生活環境が確保されていると感じている市民の割合				【重要度】 安全で良好な生活環境を確保するための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績		目標	単位	実績		-	
		R1		R5		R5	R1		R5
%	36.8	→	47.3	45.5	%	73.4	→	83.2	-

26-① 環境基準（大気・水質・騒音）の達成状況

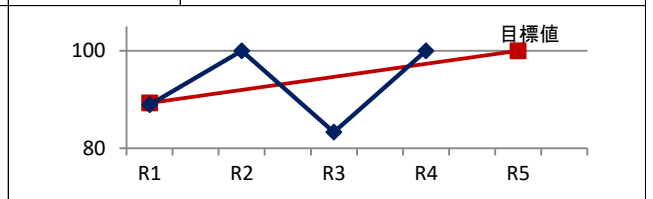
指標の説明 環境監視による大気・水質・騒音の環境基準達成度



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	95.6	95.8	95.3	96.0	100

26-① 産業廃棄物の不適正処理に関する通報に対する処理完了率

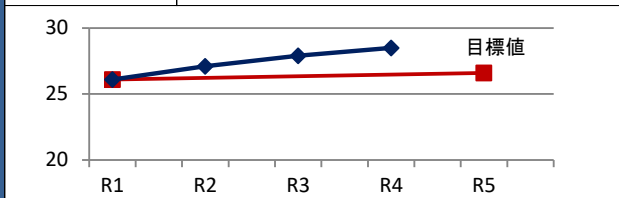
指標の説明 産業廃棄物の不適正処理に関する通報のうち、処理が完了した件数／通報件数



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	88.9	100.0	83.3	100.0	100

26-② 耐震性能を有する水道管路の割合

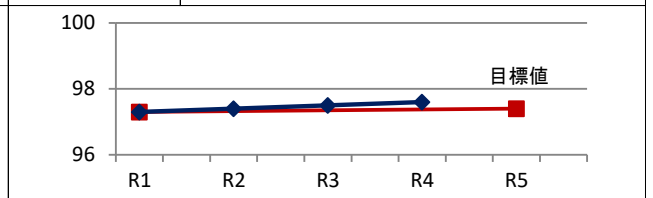
指標の説明 耐震性能を有する水道管路延長／全水道管路延長



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	26.1	27.1	27.9	28.5	26.6

26-③ 公共下水道（汚水）の人口普及率

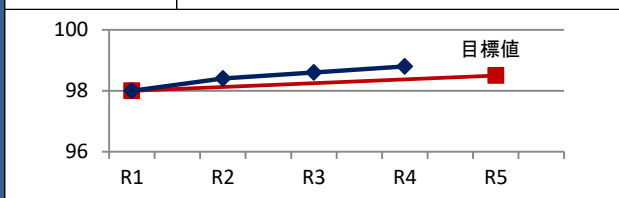
指標の説明 公共下水道整備人口／行政人口



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	97.3	97.4	97.5	97.6	97.4

26-③ 生活排水の適正処理率

指標の説明 生活排水の処理人口（公共下水道接続人口＋合併処理浄化槽処理人口等）／行政人口



単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5
%	98.0	98.4	98.6	98.8	98.5

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「安全で良好な生活環境が確保されていると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して10.5ポイント上昇し、目標値を達成しました。重要度についても令和元年度と比較して9.8ポイント上昇しています。

・施策指標「環境基準(大気・水質・騒音)の達成状況」については、令和元年度の値と比較して0.4ポイント上昇しているものの、目標値の達成には至っておらず、引き続き取り組みを進める必要があります。また、「産業廃棄物の不適正処理に関する通報に対する処理完了率」については、令和3年度に処理未完了となった事案が発生したものの、令和4年度は目標値を達成しています。

・施策指標「耐震性能を有する水道管路の割合」、「公共下水道(汚水)の人口普及率」及び「生活排水の適正処理率」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

5つの客観的指標のうち、4つについては既に目標値を達成しています。また、主観的指標の推移についても、満足度・重要度ともに上昇していることから、施策の成果はあったと考えられます。

今後は、水道施設の老朽化による更新需要の増大を見据え、計画的に水道施設の更新・耐震化を進めるとともに、ダウンサイジング等の施設総量の最適化もあわせて検討します。また、生活環境の向上と公共用水域の水質保全を図るため、未整備地区における下水道の普及を促進していきます。

【施策評価員の評価】

○産業廃棄物のリサイクル推進が次の課題となる。下水処理100%を目指すとともに、処理水質の改善や汚泥処理の適正化を目指す必要がある。合併浄化槽の管理のモニタリングも必要となる。

○「安全で良好な生活環境が確保されていると感じている市民の割合」は目標値を達成している。公共下水道をはじめ、ライフラインの整備については、拡充ではなく維持に重点を置き、安全で良好な生活環境を支える基盤のメンテナンスを計画的に整備を進めてほしい。

○ライフラインの保全是防災上極めて重要。計画通り粛々と進めることが求められる。

総括評価シート

基本目標	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標	27 地球温暖化対策に取り組むまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	27- ① 再生可能エネルギーの利用拡大を進めます。 27- 市民や事業者、行政などあらゆる主体が連携・協力しながら、環境教育・学習を推進 ② するとともに、省エネルギーの取り組みを進めます。

関連する実行計画

27-1	地球温暖化対策の推進
------	------------

（主観的指標の推移）	【満足度】 地球温暖化対策の取り組みが進んでいると感じている市民の割合	【重要度】 地球温暖化対策に取り組むための施策が重要だと思う市民の割合							
	単位	実績	目標	単位	実績	-			
		R1		R5	R5		-		
	%	26.0	→	13.2	29.0	%	56.8	→	73.9

（客観的指標の推移）	27-① 公共建築物における太陽光発電量	27-② 市民1人当たりの市内の二酸化炭素排出量									
	指標の説明	公共建築物における太陽光発電の総出力	指標の説明	市内の二酸化炭素排出量/人口							
	単位	実績	目標	単位	実績	目標					
	R1	R2	R3	R4	R5	R5					
kw	1,157	1,157	1,181	1,181	1,270	t-CO2	-	5.82	5.51	5.61	5.82

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「地球温暖化対策の取り組みが進んでいると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して12.8ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して17.1ポイント上昇しています。

・施策指標「公共建築物における太陽光発電量」については、おおむね横ばいで推移しており、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。

・施策指標「市民1人当たりの市内の二酸化炭素排出量」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

2つの客観的指標のうち、1つは既に目標値を達成していますが、もう1つは令和5年度の目標値の達成が困難な状況となっています。また、主観的指標の推移を見ても、重要度が上昇している一方、満足度は令和元年度から半減しており、地球温暖化対策について、これまででない取り組みが求められています。

今後は、2050年「二酸化炭素排出量実質ゼロ」実現に向け、環境に配慮した省エネルギー型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換を促進するとともに、再生可能エネルギーのさらなる普及拡大に取り組めます。

【施策評価員の評価】

○温暖化ガス排出量、ネットゼロを目指すのが本来目標である。そのための再エネ導入、施設設備における省資源化を進めていくことになる。行政のみならず、事業所や市民の目標にし、行動を促す必要がある。まずは2030年に向けて目標の組立て直しが必要か。

○主観的指標を見ると、満足度がかなり下落している一方、重要度がかなり上昇しており、これまででない結果になっているようにも見受けられる。SDGsなどの言葉が普及するようになったためなのか、市民の意識も変わってきているのか、今後の市の施策の重要な柱の一つとしても検討の余地があるように思う。

総括評価シート

基本目標	自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち
施策目標	28 美しく魅力あるまち並みが育まれるまち
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	<p>28- きれいなまちをつくるため、一人ひとりがポイ捨てなどのマナーに反する行為をなくすとともに、地域の道路・公園などの美化活動を促進するなど、まちの美化に向けた取り組みを進めます。</p> <p>28- 美しく快適なまち並みの形成に向けて、里山の景観や枚方宿地区などの歴史的景観をはじめ、住宅地の景観など地域の特性に応じた魅力あふれる景観づくりを進めます。</p>

関連する実行計画

28-1 美しい景観形成の推進

（主観的指標の推移）	【満足度】 まちの美化が進んでいると感じている市民の割合	【重要度】 美しく魅力あるまち並みを育むための施策が重要だと思う市民の割合																												
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>目標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="3">実績</th> <th>-</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>R5</th> <th>R1</th> <th></th> <th>R5</th> <th>-</th> </tr> <tr> <td>%</td> <td>39.6</td> <td>→</td> <td>37.9</td> <td>42.6</td> <td>%</td> <td>62.4</td> <td>→</td> <td>73.8</td> <td>-</td> </tr> </table>	単位	実績			目標	単位	実績			-	R1		R5	R5	R1		R5	-	%	39.6	→	37.9	42.6	%	62.4	→	73.8	-	
	単位		実績			目標		単位	実績			-																		
R1			R5	R5	R1		R5		-																					
%	39.6	→	37.9	42.6	%	62.4	→	73.8	-																					

（客観的指標の推移）	28-① 継続して環境美化活動を行う市民団体数	28-② 修景補助を受けた建物の件数（累計）																																	
	<p>指標の説明</p> <p>公共場所（駅前・道路・公園等）の美化活動を行う市民活動団体（アダプトプログラム登録団体）数</p>	<p>指標の説明</p> <p>歴史的景観保全地区において市からの修景補助を受けた建物修景件数（累計）</p>																																	
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>256</td> <td>259</td> <td>270</td> <td>284</td> <td>257</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(公園アダプトのみ)</p>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	団体	256	259	270	284	257	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">実績</th> <th>目標</th> </tr> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> <tr> <td>件</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>56</td> </tr> </table>	単位	実績				目標	R1	R2	R3	R4	R5	件	48	49	51	54
単位	実績				目標																														
	R1	R2	R3	R4	R5																														
団体	256	259	270	284	257																														
単位	実績				目標																														
	R1	R2	R3	R4	R5																														
件	48	49	51	54	56																														

(客観的指標の推移)	28-② 景観アドバイザーより助言を受けた件数 (累計)					
	指標の説明	建築等に関する計画を進める際に、景観アドバイザーより助言を受けた件数 (累計)				
	<p>The graph shows two data series: '実績' (Actual Performance) and '目標値' (Target Value). The x-axis represents fiscal years from R1 to R5. The y-axis represents the number of consultations, ranging from 20 to 40. The '実績' series starts at 24 in R1 and increases to 31 in R4. The '目標値' series starts at 24 in R1 and increases to 48 in R5.</p>					
	単位	実績				目標
	件	R1	R2	R3	R4	R5

単位	実績				目標
件	R1	R2	R3	R4	R5
	24	26	28	31	48

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・主観的指標「まちの美化が進んでいると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.7ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して11.4ポイント上昇しています。
- ・施策指標「継続して環境美化活動を行う市民団体数」については、すでに目標値を達成しています。
- ・施策指標「修景補助を受けた建物の件数」については、目標値に向かって推移しており、令和5年度の目標値の達成が見込まれます。一方、「景観アドバイザーより助言を受けた件数」については、令和元年度の値から緩やかに増加しているものの、引き続き目標値の達成に向けた取り組みが必要です。

課題や今後の対応

客観的指標の推移によると、すでに目標値を達成しているものがある一方で、引き続き令和5年度の目標値の達成に向けた取り組みが必要なものもあります。また、主観的指標の推移を見ても、重要度が上昇する一方で、満足度は下落しており、魅力あるまち並みに向け、より一層取り組んでいく必要があります。

今後も、アダプトプログラムやクリーンリバー（天の川、船橋川、穂谷川）などのまち美化に向けた取り組みを引き続き推進していきます。また、枚方宿を起点とする観光事業の展開にもつなげられるよう、まち並みや町家など歴史的景観の保全に向けた取り組みを推進していきます。

【施策評価員の評価】

○客観指標は達成されているが、美観形成やごみゼロに向けた実質的な指標ではないので、検討が必要。都市景観については、歴史的な街並みだけでなく、業務地区や住宅地区などの景観、里山田園地帯の景観にも配慮が必要。また、プラスチックについては、その製造、使用、流通、廃棄の各側面にわたる対策が必要となっている。

○他の施策の課題でも「関係者の高齢化」がキーワードになっていることもあり、関係者の世代交代が円滑に進む施策についても、「持続可能な社会」を実現する上で必要になってきていると思う。

○収集されたごみの量が増えているのは、清掃活動が増えて回収量が増えたのか、ポイ捨てゼロ宣言に賛同した人が増えたにもかかわらず、ポイ捨て量が増えたのか、検証が求められる。それにより意識啓発の方向性が見えてくる。

総括評価シート

基本目標	市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進
施策目標	29 市民との情報の共有化を進めます
4つの重点的に進める施策との関係	1 市民、市民団体、事業者、行政が連携し、支えあうまちをつくる
取り組みの方向	<p>29- 市民、市民団体、事業者、行政が、ともに地域課題などを共有しながらまちづくり①を進めるため、市政や地域の情報を積極的に提供するとともに人を呼び込むような市の魅力を市内外へ広く発信するなど、情報発信力の強化を図ります。</p> <p>29- 情報通信技術を活用しながら、電子自治体の取り組みを推進し、行政サービスの向上を図ります。</p> <p>29- 市民からの意見を広く聴取し、取り組みの成果や課題などを市民と共有し、連携・協力を図りながら、まちづくりを進めます。</p>

関連する実行計画

計画推進 1-1	広報・広聴活動の充実
計画推進 1-2	情報化の推進

(主観的指標の推移)	【満足度】 行政からの情報発信が充実していると感じている市民の割合				【重要度】 市民との情報の共有化を進めるための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績			目標	単位	実績		
		R1		R5	R5		R1		R5
	%	29.8	→	37.2	37.9	%	48.5	→	67.4
【満足度】 行政に対し意見を言う場が確保されていると感じている市民の割合									
単位	実績			目標					
	R1		R5	R5					
%	13.8	→	15.5	18.8					

(客観的指標の推移)	29-① 市ホームページの年間ユーザー数					29-② 粗大ごみ戸別収集のインターネット予約受付率						
	指標の説明		市ホームページを年度内に1回以上利用したユーザー数			指標の説明		粗大ごみ戸別収集のインターネット予約受付件数 ／粗大ごみ戸別収集の予約受付件数				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
		R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
	件	2,967,411	4,564,048	5,338,957	4,864,092	3,720,000	%	28.7	38.5	43.4	46.9	49.5
	29-② 住民票等のコンビニ交付件数					29-③ 市政モニターの年間平均回答者数						
	指標の説明		住民票・印鑑証明書・課税証明書・戸籍証明書のコンビニ交付件数			指標の説明		市政モニターを対象としたアンケートの年間平均回答者数				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5	
件	25,583	36,159	53,071	74,019	35,000	%	295.5	350	342	419	385	

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「行政からの情報発信が充実していると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して7.4ポイント上昇しているものの、目標値の達成には至りませんでした。また、「行政に対し意見を言う場が確保されていると感じている市民の割合」についても、令和元年度と比較して1.7ポイント上昇しているものの、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して18.9ポイント上昇しています。

・施策指標「市ホームページの年間ユーザー数」については、新型コロナウイルスに関する情報を掲載後、大きく上昇し、目標値を達成しています。

・施策指標「粗大ごみ戸別収集のインターネット予約受付率」については、高齢者のパソコン、モバイル機器の普及に伴い受付率が上昇し、令和5年度目標値の達成が見込まれます。

・施策指標「住民票等のコンビニ交付件数」については、コンビニ交付に必要となるマイナンバーカードの普及が進んだため、既に目標値を達成しています。

・施策指標「市政モニターの回答率」については、既に目標値を達成しています。

課題や今後の対応

客観的指標の推移については、4つのうち3つが既に目標値を達成しており、施策の成果はあったと考えられます。

一方、主観的指標の推移を見ると、満足度が上昇しているものの目標値には至っておらず、重要度は上昇していることから、市民との情報の共有に向けた取り組みが引き続き必要です。

今後は、市施設に設置を進めるデジタルサイネージやWEB広告といった新たな情報発信媒体の効果的な活用を検討します。また、ChatGPTを用いた問い合わせ対応の実現可能性について実証実験を行い、回答に要する時間の削減や、一貫性を持たせた回答品質の向上に向けて取り組みます。

【施策評価員の評価】

○情報共有や市民参加、デジタル化などは進んでいるが、いずれも事業ベースでの目標の達成となっている。本当に市民の理解を得ることができ、その意向を反映することができ、暮らしやすい望ましい市政になっているのかという観点から、目標を組み立てなおす必要がある。スマート化、情報化が徐々に進んでいるが、すべての業務が原則オンライン処理となること、市民サービスも原則そうなることを目標にしなければならない。新たな技術への対応も、そうした観点での利活用が双方向で可能となる。AIは住民サービスだけではなく、行政サービスの改善にもつながるので、今後の目標とするべきであろう。

○昨今、SNS普及により、情報も簡単に入手できるようになり、その中で枚方市民だけでなく、社会全体の中でも、自分の身にふりかかることについては権利意識をより高く持つ人が増えてきているように思う。行政主導寄りではなく、市民との協働の中で施策に取り組む姿勢がこれまで以上に求められる。

○SNS等の双方向性のものを活用することが望ましいが、セキュリティ面での十分な対策が求められる。

○ICT化を進めるには、市民へのICT講習などの取り組みが恒常的に行われる事が求められる。

総括評価シート

基本目標	市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進
施策目標	30 市民による活発なまちづくり活動を支援します
4つの重点的に進める施策との関係	1. 市民、市民団体、事業者、行政が連携し、支えあうまちをつくる
取り組みの方向	30- 市民などによるまちづくり活動が活性化されるよう、ネットワークづくりの場の提 ① 供のほか、若手を中心とした新たな担い手の育成など、多様な手法により支援します。

関連する実行計画

計画推進 2-1	市民活動の支援
-------------	---------

（施策指標の推移） 主観的指標	【満足度】 市民によるまちづくり活動が活発であると感じている市民の割合				【重要度】 市民による活発なまちづくり活動を支援するための施策が重要だと思う市民の割合				
	単位	実績		目標	単位	実績		-	
		R1		R5	R5	R1		R5	-
	%	21.1	→	19.7	26.1	%	45.2	→	61.2

(客観的指標の推移) 施策指標の推移	30-① 自治会等加入世帯率					30-① 市内NPO、ボランティアの団体数								
	指標の説明		自治会等に参加している世帯数/全世帯数			指標の説明		ひらかた市民活動支援センター、サブリ村野NPOセンター及び枚方市ボランティアセンターの登録団体数						
	単位		実績			目標		単位		実績			目標	
			R1	R2	R3	R4	R5			R1	R2	R3	R4	R5
	%		68.2	67.2	66.0	65.2	72.2	団体		384	352	431	439	797
	30-① 特定非営利活動法人（NPO法人）の法人数													
	指標の説明		特定非営利活動法人（NPO法人）の法人数											
	単位		実績				目標							
		R1	R2	R3	R4	R5								
法人		112	117	111	106	128								

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・主観的指標「市民によるまちづくり活動が活発であると感じている市民の割合」については、令和元年度の値と比較して1.4ポイント下落しており、目標値の達成には至りませんでした。一方、重要度については、令和元年度と比較して16ポイント上昇しています。

・施策指標「自治会等加入世帯率」については、会員の高齢化が進み、役員の担い手が不足する等自治会を取り巻く環境が厳しくなっているなど、めざすべき方向と逆に推移しており、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。

・施策指標「市内NPO、ボランティアの団体数」や「特定非営利活動法人(NPO法人)の法人数」については、団体を運営するための資金や人員の不足の他、新たな担い手へと世代交代が上手くいっていないこともあり、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。

客観的指標のすべてについて、令和5年度の目標値の達成が困難な状況となっており、主観的指標の推移を見ると、重要度が上昇する一方、満足度は下落しています。市民が活発にまちづくり活動に携わるために、どのような支援を必要としているか、あらためてニーズの把握が必要です。

今後は、ひらかた市民活動支援センターと連携し、新たな担い手の確保に向け取り組みます。また、枚方市コミュニティ連絡協議会と連携し、自治会加入率の減少やコミュニティ・自治会の高齢化、役員の担い手不足といった課題解決に取り組みます。

【施策評価員の評価】

○NPO活動、ボランティア活動、自治会活動の活性化は、人口減少社会高齢化社会の中で、量的に拡大することには無理がある。参加者が少なくなることを前提に活動の質をいかに上げていくのか、それによって多くの市民の賛同を得ることができるのか、そうした視点での市民団体支援が必要である。とりわけ資金支援、人的支援が重要となりそうであり、こうした観点での行政の対応、中間支援団体の対応を促進していく必要がある。自治会については、その衰退傾向があり、すべてではないとしても再編成を含めた抜本的な対策を考えていく段階が来ている。地域自治組織への組み換えも自主的に進められることが望ましい。

○他の施策で書いたが、今回の総括評価を見ていると、「関係者の高齢化」がキーワードになっている一方、日本全体の人口減少に差し掛かっていることから、世代交代を円滑に進めることも今後の重要な施策の一つになってくる。そのため、人手不足や確保の現状把握や今後の対応策については、庁内各部署間による連携も視野に入れた取り組みが求められる。

○共助の担い手である自治会やNPOが活動を続けていくための支援拡充が急務である。市として市民によるまちづくり活動の理想的な姿や支援を行う対象を明確にし、関係機関と連携した取り組みが必要である。

○自治会加入はアムチ方式で、防災面から相互扶助の意識啓発をすることが望ましい。真のコミュニケーションはFace to Faceからで、地域カフェやイベント開催などの「ふれ合いの場」を基に、次世代交流・人材リクルートを行う事が有効である。ボランティア人材バンクのマッチングアプリがあっても良い。

総括評価シート

基本目標	効率的・効果的な市政運営
施策目標	31 持続可能な行財政運営を進めます
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	<p>31-① 効率的・効果的な行政経営を進めるため、事務事業の見直し・改善、民間活力の活用など行政改革の取り組みを進めます。</p> <p>31-② 選択と集中の視点を踏まえた効率的・効果的な予算編成と執行を行うとともに、更なる財源確保に取り組むことで、強固な財政基盤の確立をめざします。</p> <p>31-③ 老朽化した道路、橋梁、公園、上下水道などの都市基盤や学校園などの市有建築物について、管理コストの平準化を図りながら、計画的に改修・更新を進めます。</p> <p>31-④ 公共施設等について、少子高齢化・人口減少の進展や利用需要の動向を踏まえ、機能見直しや統廃合などにより、その有効活用や最適な配置を進めます。</p> <p>31-⑤ 限られた人的資源を有効に活用しながら、状況の変化により柔軟かつ適切に対応できるように、組織体制の充実を図ります。</p> <p>31-⑥ 市で保有する個人情報の適正な管理を図るとともに、システム障害による業務停止などを防ぐセキュリティ対策の強化を図ります。</p> <p>31-⑦ さざまな行政課題に対応し市民サービスの向上を図るため、目標の達成に向け意欲的に学び成長していく職員の育成を進めます。</p>

関連する実行計画

計画推進 3-1	「見える」行政改革の推進
計画推進 3-2	公共施設の適正化

（主観的指標の推移）	【満足度】	【重要度】	持続可能な行財政運営を進めるための施策が重要だと思う市民の割合							
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
		-	→	-	-	%	61.3	→	71.7	-

（客観的指標の推移）	31-① 人件費の割合					31-① 行財政改革プラン2020（R2～5）の進捗率					
	指標の説明	歳出総額における人件費の割合（普通会計）				指標の説明	行財政改革プラン2020に掲げる「取り組み課題」の達成項目数／「取り組み課題」の項目数				
	単位	実績				目標	単位	実績			
	R1	R2	R3	R4	R5		R1	R2	R3	R4	R5
%	14.3	10.5	12.0	11.9	14.5	%	-	1.2	8.4	10.2	100

(客観的指標の推移)	31-⑥ 個人情報の漏えい防止等セキュリティに関する研修参加率					31-⑦ 職員研修受講者の理解度						
	指標の説明		個人情報の漏えい防止等セキュリティに関する職員対象の研修参加者数/全職員			指標の説明		研修受講職員を対象に実施する事後アンケートにおいて、理解度を測る設問（5段階）に対して「よく分かった」「分かった」を選択した職員の割合				
	単位	実績				目標	単位	実績				目標
	人	R1	R2	R3	R4	R5	回	R1	R2	R3	R4	R5
	-	55	99	35	100		95	83	88	82	100	

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

- ・「持続可能な行財政運営を進めるための施策が重要だと思ふ市民の割合」については、令和元年度の値と比較して10.5ポイント上昇しています。
- ・施策指標「人件費の割合」については、令和元年度の値を下回っており、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。一方、「行財政改革プラン2020(R2～5)の進捗率」については、「行財政改革プラン2020」の多くの課題が令和5年度での達成を目標としており、引き続き適切に進捗管理を行っていく必要がある。
- ・健全化判断比率(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率)については、実質公債費比率以外の3項目は目標値以下で推移しています。
- ・施策指標「個人情報の漏えい防止等セキュリティに関する研修参加率」については、令和4年度に大きく下落しており、目標値の達成に向け引き続き取り組む必要があります。
- ・施策指標「職員研修受講者の理解度」については、横ばいで推移しており、目標値の達成に向け引き続き取り組む必要があります。

課題や今後の対応

4つの客観的指標は、目標値以下で推移しており、「人件費の割合」については目標値の達成が困難な状況となっています。

また、主観的指標の重要度は上昇しており、持続可能な行財政運営に向けより一層の取り組みが求められています。

今後は、新たな行政改革プランを策定・推進するとともに、将来を見据えた公共施設の最適な配置と活用を図るため、公共施設マネジメントを全庁横断的に推進します。また、ふるさと納税、企業版ふるさと納税、ネーミングライツ、市有財産の有効活用などをさらに充実し、自主財源の確保に取り組めます。

【施策評価員の評価】

○令和5年度を目標年次とする現行改革プランの実績見直しはすでに立っているとと思われるが、おそらくそれを踏まえた次期計画の策定が進んでいることと考えられる。次期計画では、改革項目ごとに毎年度の工程表を作成して、新著慮度チェックをして行く方法をとること、それによってPDCAサイクルを確立することである。サービス改善、効率改善、財源探索、公共施設の縮減、長寿命化、民間委託や民営化、職員のモチベーションと処遇の改善、適正な組織と人事、財政見直しなどを、毎年度の成果とその反省の材料として指標化して見える化する必要がある。

○市役所における部署間の調整コストを下げる取り組みが必要である。市として一体感をもって行政ニーズに応えられるように部署同士の連携・調整がしやすい環境づくりが求められる。

○財源確保には、プロジェクトごとのファンド方式も有効で持続可能性が高まる。また、PM（プロジェクトマネジメント）の知見が求められる。

総括評価シート

基本目標	広域的な連携と地方分権の推進
施策目標	32 自治体間の広域連携や地方分権の推進を図ります
4つの重点的に進める施策との関係	
取り組みの方向	32- 防災や医療、環境などの広域的な課題に対し、必要に応じて周辺自治体と連携・協力 ① することで、効率的・効果的な行政サービスの提供を図ります。 32- 地方の自由度を高め、地域の実情に即した魅力あるまちづくりに資する行政サービス ② を行うために、権限移譲や地方財源の充実などについて国等に働きかけていきます。

（主観的指標の推移）					【重要度】 自治体間の広域連携や地方分権を推進するための施策が重要だと思ふ市民の割合					
	単位	実績			目標	単位	実績			-
		R1		R5	R5		R1		R5	-
	%	-	→	-	-	%	50.3	→	61.5	-

（客観的指標の推移）	32-① 複数の自治体との取り組み件数					32-② 大阪府からの権限移譲事務数（累計）					
	指標の説明	複数の自治体と共同で行っている取り組み件数				指標の説明	大阪版地方分権推進制度により、大阪府から権限移譲を受けた事務数（累計）				
	単位	実績				目標	単位	実績			
件	R1	R2	R3	R4	R5	件	R1	R2	R3	R4	R5
	9	9	9	9	10		32	32	32	32	36

施策目標に対する主観的指標の推移と実行計画推進による実績

・「自治体間の広域連携や地方分権を推進するための施策が重要だと思う市民の割合」については、令和元年度の値と比較して11.2ポイント上昇しています。

・施策指標「複数の自治体との取り組み件数」については、令和元年度から横ばいで推移し、目標値の達成に向け引き続き取り組みが必要です。

・施策指標「大阪府からの権限移譲事務数」については、令和元年度から横ばいで推移し、令和5年度の目標値の達成は困難な状況です。

課題や今後の対応

2つの客観的指標は横ばいで推移しており、令和元年度から変化していません。一方、主観的指標の推移をみると、重要度が上昇しており、今後も、広域的な課題に対する自治体間の連携や地方分権に引き続き取り組みます。

【施策評価員の評価】

○広域連携は、人口減少高齢化が進む中で、必須の取り組みであり、聖域のない広域連携を模索する必要がある。またその一方では、権限移譲によって、市民への責任を一貫して担うことができる中核市となるために国及び大阪府からの権限移譲を積極的に進める必要がある。大阪府が示すメニューによらない新たな領域を開拓することも今後考えていかなければならない。

○市民ニーズの把握に努めるとともに、限られた財源ということもあり、周辺自治体との広域連携も含め、効果的な行政サービスのあり方について、引き続き検討を進めていく必要があるし、このような取り組みをする上では、高度なスキルをもつ市役所職員の育成も同時に必要になる。

○行政機構合理化の観点から、周辺市との広域化の推進を検討する必要がある。